

27-2

C8
4

法令全書

詔勅

朕貴族院伯子男爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治三十六年三月六日ヲ以テ貴族院子爵議員一名
關賢ノ爲ニ補關選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

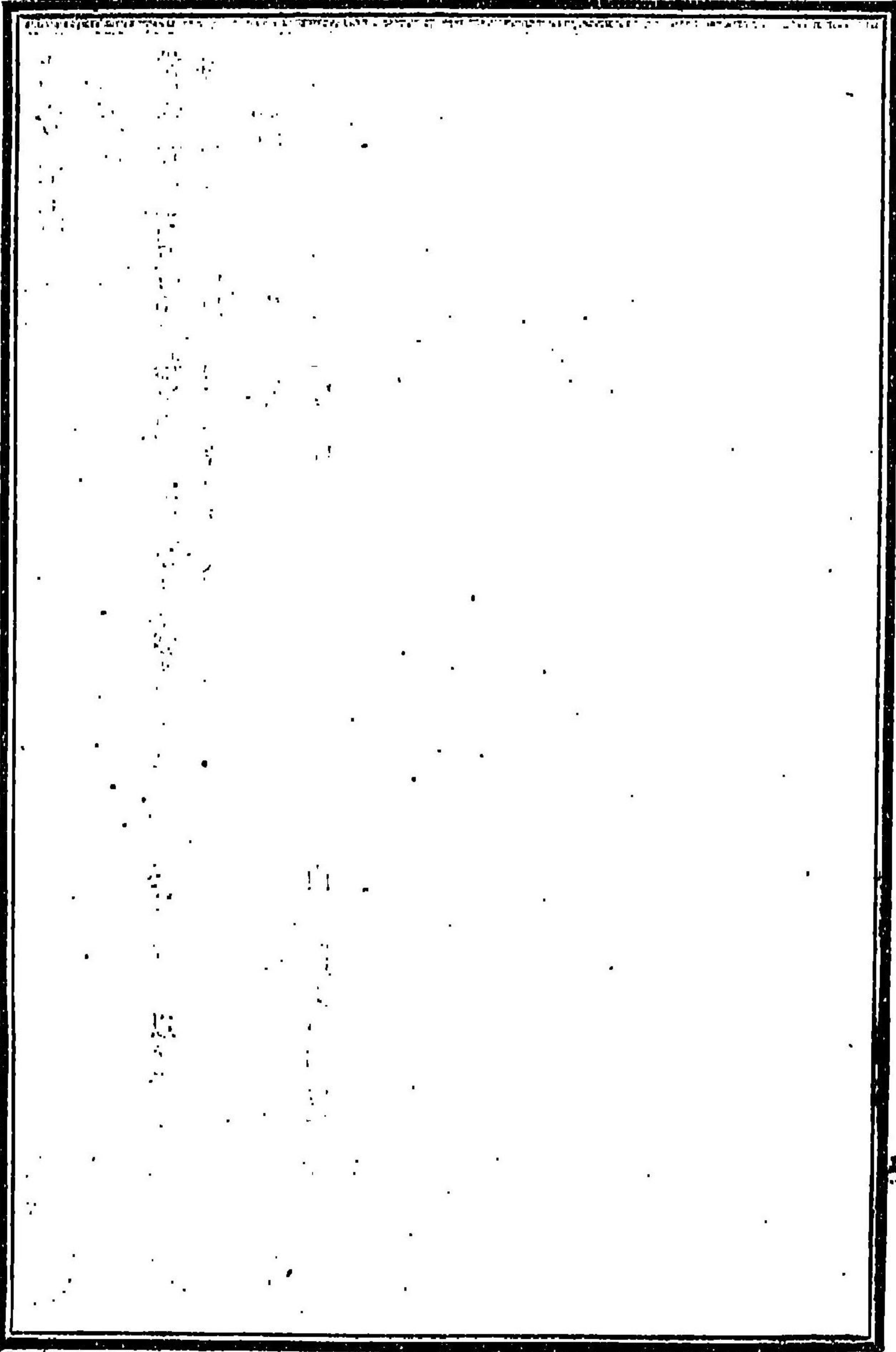
明治三十六年一月九日(官報一月十日)



內閣總理大臣伯耆桂太郎

明治三十六年一月十日

21



○
朕族院多額納稅者議員互選規則第二十四條ニ依リ富山縣ニ於テ貴族院多額納稅者議員議員ノ爲
ニ補選選舉ヲ行フヘキコトヲ命ヌ

御名 御璽

明治三十六年二月十二日(官報二月十三日)

内閣總理大臣伯爵桂 太郎

朕帝國憲法第七條及第四十五條ニ依リ本年五月八日ヲ以テ帝國議會ヲ東京ニ召集ス

御名 御團

明治三十六年三月二十五日 (官報 三月二十六日)

内閣總理大臣伯爵桂 太郎

海軍大臣男爵山本權兵衛

逓信大臣子爵芳川顯正

内務大臣男爵内海忠勝

文部大臣男爵池田大麓

農商務大臣男爵平田東助

司法大臣男爵清浦奎吾

大藏大臣男爵曾根虎助

外務大臣男爵小村壽太郎

陸軍大臣 寺内正毅

朕本年五月八日ヲ以テ召集スル帝國議會ハ二十一日ヲ以テ會期ト爲スヘキコトヲ命ス

御名 御團

明治三十六年三月二十五日 (官報 三月二十六日)

内閣總理大臣伯爵桂 太郎

海軍大臣 伯爵 山本權兵衛
 遞信大臣 伯爵 芳川顯正
 內務大臣 伯爵 內海忠勝
 文部大臣 伯爵 菊池大麓
 農商務大臣 伯爵 平田東助
 司法大臣 伯爵 清浦奎吾
 大藏大臣 伯爵 曾根荒助
 外務大臣 伯爵 小村壽太郎
 陸軍大臣 寺內正毅

朕帝國憲法第七條及議院法第五條ニ依リ五月十二日ヲ以テ帝國議會ノ開會ヲ命ス

御名 御璽

明治三十六年五月十一日

內閣總理大臣 伯爵 桂 太郎
 海軍大臣 伯爵 山本權兵衛
 遞信大臣 伯爵 芳川顯正
 內務大臣 伯爵 內海忠勝
 文部大臣 伯爵 菊池大麓
 農商務大臣 伯爵 平田東助
 司法大臣 伯爵 清浦奎吾
 大藏大臣 伯爵 曾根荒助
 外務大臣 伯爵 小村壽太郎
 陸軍大臣 寺內正毅

朕帝國憲法第七條ニ依リ五月二十一日ヨリ二十三日迄三日間帝國議會ノ停會ヲ命ス

御名 御璽

明治三十六年五月二十一日

內閣總理大臣 伯爵 桂 太郎
 海軍大臣 伯爵 山本權兵衛
 遞信大臣 伯爵 芳川顯正

朕六月四日迄三日間帝國議會會期ノ延長ヲ命ヌ

御名 御璽

明治三十六年五月三十一日

内務大臣男爵内海忠勝
 文部大臣男爵池田大龍
 農商務大臣男爵平田東助
 司法大臣男爵清浦奎吾
 大藏大臣男爵曾根荒助
 外務大臣男爵小村壽太郎
 陸軍大臣 寺内正毅
 内閣總理大臣伯爵桂 太郎
 海軍大臣男爵山本權兵衛
 逓信大臣子爵芳川正
 内務大臣男爵内海忠勝
 文部大臣男爵池田大龍
 農商務大臣男爵平田東助
 司法大臣男爵清浦奎吾
 大藏大臣男爵曾根荒助
 外務大臣男爵小村壽太郎
 陸軍大臣 寺内正毅

朕貴族院多額納稅者議員互選規則第二十四條ニ依リ神奈川縣ニ於テ貴族院多額納稅者議員限員ノ爲ニ補關選舉ヲ行フヘキコトヲ命ヌ

御名 御璽

明治三十六年六月二十二日 (官報 六月二十三日)

内閣總理大臣伯爵桂 太郎

朕帝國憲法第七條及第四十一條ニ依リ本年十二月五日ヲ以テ帝國議會ヲ東京ニ召集ス

御名 御璽

明治三十六年十月二十一日 (官報十月二十二日)

- 内閣總理大臣 伯爵桂 太郎
- 兼内務大臣
- 海軍大臣 男爵山本權兵衛
- 農商務大臣 男爵清浦奎吾
- 大藏大臣 男爵曾根荒助
- 外務大臣 男爵小村壽太郎
- 陸軍大臣 寺內正毅
- 司法大臣 波多野敬直
- 遞信大臣 大浦兼武
- 文部大臣 久保田 勲

朕貴族院伯子男爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治三十七年一月二十二日ヲ以テ貴族院伯子男爵議員一名缺員ノ爲ニ補選舉行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治三十六年十一月三十日(官報十二月二日)

内閣總理大臣伯爵桂 太郎

朕帝國憲法第七條及議院法第五條ニ依リ十二月十日ヲ以テ帝國議會ノ開會ヲ命ス

御名 御璽

明治三十六年十二月七日

- 内閣總理大臣兼 伯爵桂 太郎
- 海軍大臣 伯爵山本權兵衛
- 農商務大臣 伯爵清浦奎吾
- 大藏大臣 伯爵曾根荒助
- 外務大臣 伯爵小村壽太郎
- 陸軍大臣 寺內正毅
- 司法大臣 波多野敬直
- 逓信大臣 大浦兼武
- 文部大臣 久保田 謙

朕帝國憲法第七條ニ依リ衆議院ノ解散ヲ命ス

御名 御璽

明治三十六年十二月十一日

- 内閣總理大臣兼 伯爵桂 太郎
- 内務大臣 伯爵山本權兵衛
- 海軍大臣 臣男爵清浦奎吾
- 農商務大臣 臣男爵曾根荒助
- 大藏大臣 臣男爵小村壽太郎
- 外務大臣 臣男爵寺內正毅
- 陸軍大臣 波多野敬直
- 司法大臣 大浦兼武
- 逓信大臣 久保田 讓
- 文部大臣

朕帝國憲法第七條及第四十四條第二項ニ依リ貴族院ノ停會ヲ命ス

御名 御璽

明治三十六年十二月十一日

- 内閣總理大臣兼 伯爵桂 太郎
- 内務大臣 伯爵山本權兵衛
- 海軍大臣 臣男爵清浦奎吾

- 農商務大臣 臣男爵清浦奎吾
- 大藏大臣 臣男爵曾根荒助
- 外務大臣 臣男爵小村壽太郎
- 陸軍大臣 臣男爵寺內正毅
- 司法大臣 波多野敬直
- 逓信大臣 大浦兼武
- 文部大臣 久保田 讓

朕帝國憲法第四十五條及衆議院議員選舉法第二十八條ニ依リ明治三十七年三月一日ヲ以テ衆議院議員ノ總選舉ヲ行フコトヲ命ス

御名 御璽

明治三十六年十二月十二日

- 内閣總理大臣兼 伯爵桂 太郎
- 内務大臣 臣男爵山本權兵衛
- 海軍大臣 臣男爵清浦奎吾
- 農商務大臣 臣男爵曾根荒助
- 大藏大臣 臣男爵小村壽太郎
- 外務大臣 臣男爵寺內正毅
- 陸軍大臣 波多野敬直
- 司法大臣 大浦兼武
- 逓信大臣 久保田 讓
- 文部大臣

法令全書

法律

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テル鐵道敷設法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御 璽

明治三十六年六月十日

内閣總理大臣 伯爵 桂 犬郎
遞信大臣 子爵 芳川 顯正
大藏大臣 男爵 曾 楠 亮助
陸軍大臣 寺内 正毅

法律第一號 (宣稱 六月十一日)
鐵道敷設法中改正法律

第二條中「姫路近傍」ヲ「和田山」ニ改ム
第七條中「姫路近傍」ヲ「和田山」ニ改ム
第八條中「十二箇年」ヲ「二十箇年」ニ改ム

〔參照〕

法律第四號鐵道敷設法(明治二十五年六月二十一日官報)抄録

第三條 鐵道敷設法中改正法律ノ如シ

一 兵庫縣下國路近傍ヨリ鳥取縣下鳥取ニ至ル鐵道又ハ岡山縣下岡山ヨリ津山ヲ經テ鳥取縣下米子及境ニ至ル鐵道若ハ岡

山縣下倉敷又ハ玉島ヨリ鳥取縣下境ニ至ル鐵道
第七條 鐵道敷設法中改正法律ノ第一期間ニ於テ其ノ實況及敷設ニ著手ス
一 岡山縣岡崎郡津山町内兵庫縣下國路近傍ヨリ鳥取縣下鳥取ヲ經テ境ニ至ル鐵道又ハ岡山縣下岡山ヨリ津山ヲ經テ鳥

取願下地ニ至ル鐵道者ハ岡山縣下津敷ヨリ島取縣下津ニ至ル鐵道
第八條 第一節鐵道工事ノ起工ノ年ヨリ而シテ十二年ヲ以テ完成期限トス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十七年法律第十號中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年六月十日

- 内閣總理大臣 伯爵 桂 太郎
- 遞信大臣 伯爵 芳川 顯正
- 大藏大臣 伯爵 曾根 克助
- 陸軍大臣 寺内 正毅

法律第二號 (官報 六月十一日)

明治二十七年法律第十號中「姫路」ヲ「和田山」ニ改ム

〔參照〕

法律第十號 (明治二十七年六月十二日官報)

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法第七條中山崎山崎縣結城縣比叡縣結城縣ハ左ノ鐵道ヲ採ル
一 兵隊縣下津路ヨリ島取縣下津取ヲ經テ境ニ至ル鐵道

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル災害地地租延納ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年六月十五日

- 内閣總理大臣 伯爵 桂 太郎

法律第三號 (官報 六月十六日)

災害又ハ天候不順ニ因リ府縣及北海道ノ全部若ハ一部ニ互リ收穫者無シ歸シタル田畑ノ地租ニ付
テ十年以内ノ期間ヲ以テ年賦延納ヲ許可スルコトヲ得
前項ニ依リ延納ノ許可ヲ受ケタル者ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ其ノ事實ヲ證明シ主務官廳
ニ出願スルコトヲ得

大藏大臣 伯爵 曾根 克助

本法ニ依リ延納ヲ許可シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セシム
本法ニ依リ被害調査中ノ地租ノ徵收ヲ猶豫ス

附則

本法ノ規定ハ之ヲ明治三十五年分田畑地租ニ準用ス

明治三十六年勅令第八號ニ依リ延納ノ許可ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ更ニ期間ノ更正ヲ求ムルコ
トヲ得
前二項ニ依リ延納ノ許可ヲ得タル期間ノ更正ヲ求ムル者ハ本法施行後三十日以内ニ出願ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル度量衡法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年六月十五日

- 内閣總理大臣 伯爵 桂 太郎

農商務大臣男爵平田東助

法律第四號 (官報 六月十六日)

度量衡法中左ノ通改正ス

第七條 農商務大臣ハ副原器ニ依リ檢定原器ヲ製作セシメ度量衡器檢定ノ標準ニ供ス

第九條第二項中及定期間ニ於テヲ削ル

第十條 度量衡器ノ種類、形狀、物質、公差及使用ノ制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 度量衡器ノ檢定、取締及臨檢ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條中取締ノ爲ニ行フヲ削リ「吏員」ヲ「官吏」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

當該官吏臨檢ノ際度量衡ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ其ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

第十五條 免許ヲ受ケヌシテ度量衡器ノ製作又ハ修葺ノ業ヲ營ムル者ハ二十圓以上三百圓以下

ノ罰金ニ處ス

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 免許ヲ受ケヌシテ度量衡器ヲ販賣シタル者

二 檢定ヲ受ケヌ若ハ檢定ノ效力ヲ失ヒタル度量衡器ヲ販賣シ又ハ之ヲ營業ノ目的ニ使用シタル者

三 差狂アル度量衡器ナルコトヲ知テ之ヲ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用シタル者

四 官吏ノ臨檢又ハ差押ヲ拒ムル者

附則

本法ハ明治二十七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

法律第三號度量衡法(明治二十四年三月二十四日官報)抄錄

第七條 農商務大臣ハ副原器ニ依リ地方原器ヲ製作セシムル

地方原器ハ地方長官之ヲ保管シ度量衡器檢定ノ標準ニ供スルモノトス

第九條第二項

營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ前項檢定ノ外之ヲ修葺シタルトキ及定期間ニ於テ檢定ヲ受ケル

第十條 度量衡器ノ種類、形狀、物質、檢定ノ定期及公差檢定スヘキ目盛及分限ノ最小定限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 度量衡器ノ檢定及取締ハ地方長官之ヲ管理ス

地方長官ハ市長、町村長ヲシテ其ノ市町村內ニ於ケル度量衡器ノ取締ヲ行ハシメ及其ノ檢定ニ關スル事務ヲ補助セシムルコトヲ得

第十二條 度量衡器ノ製作者、修葺者、販賣者及使用者ハ取締ノ爲ニ行フ管收吏員ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ズ但シ吏員ハ主任タルノ職限ヲ排シテ之ヲ示ス

第十五條 免許ヲ受ケヌシテ度量衡器ヲ製作シ若ハ修葺シテ販賣シタル者ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

免許ヲ受ケヌシテ度量衡器ヲ販賣シ又ハ檢定ヲ受ケサル度量衡器ヲ販賣シ若ハ之ヲ營業ノ目的ニ使用シ及吏員ノ臨檢ヲ拒ミタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

差狂アル度量衡器ナルコトヲ知テ之ヲ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用シタル者亦前項ニ同シ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル組織樟腦樟腦油專賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年六月十六日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎

内務大臣男爵内海忠勝

農商務大臣男爵平田東助

大藏大臣 青木 綱茂 助

法律第五號 (官報 六月十七日)

粗製樟腦、樟腦油專賣法

- 第一條 政府ハ粗製樟腦、樟腦油ノ專賣權ヲ有ス
- 第二條 粗製樟腦、樟腦油ヲ製造スル者ハ總テ其ノ粗製樟腦、樟腦油ヲ政府ニ納付スヘシ納付ノ期限及場所ハ政府之ヲ指定ス
- 第三條 政府ハ收納シタル粗製樟腦、樟腦油ニ對シ補償金ヲ交付ス補償金ハ政府之ヲ定メ豫メ公示ス
- 第四條 政府ヨリ賣渡シタル粗製樟腦、樟腦油ニ非サルハ所有、所持、讓渡、質入者ハ消費シ、外國ニ輸出シ又ハ内地臺灣間ノ輸送ヲ爲スコトヲ得ズ但シ納付期限前又ハ正當ノ事由ニ因リ納付ヲ遅延シタル場合ニ於テ所有、所持スルハ此ノ限ニ在ラズ
- 第五條 樟腦、樟腦油ハ政府指定ノ港灣ニ由ルニ非サルハ之ヲ外國ニ輸出シ又ハ内地臺灣間ノ輸送ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第六條 粗製樟腦、樟腦油ヲ製造セムトシ者又ハ粗製樟腦ヲ精製セムトスル者ハ製造場、廠敷、一箇年ノ生産見込量目及製造者手ノ時期ヲ定メ政府ノ許可ヲ受クヘシ
前項ニ依リ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更シ又ハ製造ヲ廢止セムトスルトキハ政府ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 相續ニ因リ樟腦、樟腦油ノ製造ヲ繼承シタルトキハ政府ニ届出ツヘシ
相續ニ因リ又外製造ヲ繼承セムトスルトキハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 粗製樟腦、樟腦油ノ製造者ハ粗製樟腦ノ精製者ト相兼ヌルコトヲ得ス

第九條 政府ハ樟腦、樟腦油ノ需要供給ノ情況ニ依リ粗製樟腦、樟腦油ノ製造ヲ制限スルコトヲ得

第十條 樟腦、樟腦油ノ製造ノ許可ヲ受ケタル者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シ又ハ豫定ノ條件ヲ履行セサルトキハ政府ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得
蕃地ノ狀況ニシテ公安上必要アリト認ムルトキハ政府ハ粗製樟腦、樟腦油ノ製造ヲ停止シ又ハ製造ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十一條 樟腦、樟腦油ノ製造者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載ス

第十二條 當該官吏ハ樟腦、樟腦油ノ製造ニ關スル一切ノ帳簿ヲ検査シ又ハ樟腦、樟腦油ノ製造場、貯藏場共ノ他樟腦、樟腦油ノ所在ト認ムル場所ニ統キ検査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條 樟腦、樟腦油ハ總テ定價ヲ以テ之ヲ賣渡ス但シ必要ト認ムル場合ハ競争ニ付スルコトヲ得

第十四條 政府ヨリ賣渡ヲ爲ササル粗製樟腦、樟腦油ニシテ犯人以外ノ所有ニ係ルモノハ之ヲ政府ニ收納ス此ノ場合ニ於テハ他物ヲ混和シタル粗製樟腦、樟腦油ヲ除クノ外第三條ニ準シ補償金ヲ交付ス

第十五條 納付前粗製樟腦、樟腦油ニ他物ヲ混和シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ共ノ粗製樟腦、樟腦油ハ之ヲ沒收ス

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ共ノ犯罪ニ係ル樟腦

樟腦油ハ之ヲ沒收シ既ニ釀渡消費シ又ハ輸出シタルトキハ其ノ代價ニ相當スル金額ヲ追徴ス

一 第四條又ハ第五條ニ違背シタル者

二 許可ヲ受ケスシテ粗製樟腦樟腦油ヲ製造シ又ハ粗製樟腦ヲ精製シタル者

三 許可ヲ受ケスシテ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更シ又ハ製造ヲ廢止シタル者

四 第九條ノ制限又ハ第十條第二項ノ停止ノ處分ニ違背シタル者

第十七條 相續ニ因リ樟腦樟腦油ノ製造ヲ繼承シタルトキ其ノ届出ヲ爲ササル者ハ一圓以上一

圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十八條 樟腦樟腦油ノ製造者帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ之ヲ怠リタルトキハ三圓

以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 當該官吏ノ尋問ニ對シ虚偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ

若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法

ニ依ル

第二十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及

數罪俱發ノ例ヲ用非ス

第二十一條 當業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定

ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ

能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 樟腦樟腦油ノ製造者又ハ取引人ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人共ノ他ノ從業

者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタルトキハ自己ノ指

揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十三條 間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キ

テ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

間接國稅犯則者處分法中收稅官吏及稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ命令ヲ以テ之ヲ定

之ヲ定ム

第二十四條 本法施行ノ爲必要ナル規定ニシテ主務大臣ノ定ムヘキ事項ハ臺灣ニ於テハ臺灣總督

之ヲ定ム

附 則

第二十五條 本法ハ明治三十六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣樟腦及樟腦油專賣規則並臺灣樟腦及樟腦油製造規則ハ之ヲ廢止ス

第二十六條 本法施行ノ際内地ニ於テ樟腦樟腦油ノ製造者又ハ取引人ノ所有スル粗製樟腦樟腦

油ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ準シ之ヲ政府ニ納付スヘシ

第二十七條 本法施行ノ際内地ニ於テ樟腦樟腦油ノ製造者又ハ取引人以外ノ者ノ所有ニ係ル粗

製樟腦樟腦油ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用セシ

第二十八條 本法施行ノ際内地ニ於テ樟腦樟腦油ヲ製造スル者ハ明治三十六年十一月一日迄ニ

本法ニ依リ許可ヲ受ケヘシ其ノ期間内ハ從前ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

第二十九條 臺灣樟腦及樟腦油製造規則ニ依リ特許ヲ受ケタル者ハ其ノ期間滿了ノ日迄本法ニ依

リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鐵道敷設法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年六月十六日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
遞信大臣子爵芳川顯正
大藏大臣男爵曾禰荒助
陸軍大臣 寺内正毅

法律第六號(官報 六月十七日)

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

第九條中「金九千五百萬圓」ヲ「壹億貳百萬圓」ニ改ム

〔參照〕

法律第四號鐵道敷設法(明治二十五年六月二十一日官報)抄錄

第九條 第一項鐵道敷設ノ費用ニ充ツル爲金九千五百萬圓ヲ限リ漸次公債ヲ募集スルコトヲ得

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル事業公債條例中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年六月十六日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎

法律第七號(官報 六月十七日)

事業公債條例中左ノ通改正ス

第一條中「股額面壹億五千萬圓」ヲ「壹億七千五百萬圓」ニ改ム

〔參照〕

法律第五十九號事業公債條例(明治二十九年三月三十日官報)抄錄

第一條 事業公債ハ既設官線鐵道改良北海鐵道建設鐵道電話擴張ノ要途機關並其資金及國防事業ノ費用ニ充ツルコトヲ得

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臺灣事業公債法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年六月十六日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
大藏大臣男爵曾禰荒助

法律第八號(官報 六月十七日)

臺灣事業公債法中左ノ通改正ス

第三條ニ左ノ如ク加フ

政府ハ時宜ニ由リ前項ノ擔保年限ヲ五箇年トシ其ノ翌年ヨリ五十箇年間ニ償還スルモノトシテ起債スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ起債シタルモノノ利子ハ毎年三月及九月ニ於テ之ヲ仕拂フ

第一項ノ規定ニ依ル公債ハ債權者ノ請求ニ依リ第二項ノ規定ニ依ル公債ニ變換スルコトヲ得

○ 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル日本勸業銀行法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年六月十六日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
大藏大臣男爵曾根荒助

法律第九號(官報六月十七日)

日本勸業銀行法中左ノ通改正ス

第十四條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

日本勸業銀行ハ臺灣ニ於テ貸付ヲ爲ス場合ニハ業主權ヲ擔保ニ徵スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法中抵當ニ關スル規定ヲ準用ス

第十五條ニ左ノ一項ヲ加フ

耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行スル場合ニ於テ參加土地所有者總員カ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキ又ハ整理委員カ規約ノ定ムル所ニ依リ借用ヲ申出タルトキハ抵當ヲ徵セスレテ定期償還貸付又ハ年賦償還貸付ヲ爲スコトヲ得

○ 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル農工銀行法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年六月十六日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
大藏大臣男爵曾根荒助

法律第十號(官報六月十七日)

農工銀行法中左ノ通改正ス

第六條第三號中「市町村」ノ上ニ「郡」ヲ加フ

同條第四號ヲ左ノ如ク改ム

耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行スル場合ニ於テ參加土地所有者總員カ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキ又ハ整理委員カ規約ノ定ムル所ニ依リ借用ヲ申出タルトキハ無抵當ニテ本條第一號第二號ノ貸付ヲ爲スコト

第二十條中「市町村」ノ上ニ「郡」ヲ加フ

〔參照〕

法律第八十三號農工銀行法(明治二十九年四月二十日官報)抄録

第六條 農工銀行ハ左ノ事業ヲ營ムルコトス

三 市町村又ハ法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シ無抵當ニテ本條第一號第二號ノ貸付ヲ爲スコト

四 耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行スル場合ニ於テ參加土地所有者總員カ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキ又ハ整理委員カ規約ノ定ムル所ニ依リ借用ヲ申出タルトキハ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコト

第二十條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ於テ年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキハ農工銀行ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

監督官廳前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ命令シテ延滞金及第十四條ノ利子ヲ拂込メントス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル耕地整理法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年六月十六日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
内務大臣男爵内海忠勝
農商務大臣男爵平田東助
司法大臣男爵清浦奎吾
大藏大臣男爵曾根荒助

法律第十一號 (官報 六月十七日)

耕地整理法中左ノ通改正ス

第四十四條 整理委員ハ設計書及規約ノ定ムル所ニ依リ整理工事ノ施行、整理ニ關シテ生シタル

債務ノ辨濟共ノ他整理施行ニ關シ一切ノ事務ヲ處理スルノ責ニ任ス

第六十四條第二項ヲ左ノ如ク改ム

整理委員カ規約ノ定ムル所ニ依リ日本勸業銀行又ハ農工銀行ヨリ借入シタル金額及其ノ利子ニ

付テハ參加土地所有者連帶シテ其ノ責ニ任ス

第六十五條 參加土地所有者費用ヲ完納セサルトキハ市町村長ハ整理委員ノ請求ニ因リ市町村稅

徵收ノ方法ニ準シテ之ヲ徵收ス

前項徵收金ハ整理地區ニ編入シタル土地ニ關シ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次テ

先取特權ヲ有ス

參加土地所有者夫役ヲ供給セサルトキハ整理委員ハ金額ニ算出シテ之ヲ徵收ス此ノ徵收ニ付テ

亦前二項ノ規定ニ依ル

〔參照〕

法律第八十三號耕地整理法(明治三十二年三月二十二日官報)抄録

第四十四條 整理委員ハ設計書及規約ノ定ムル所ニ依リ整理施行ノ責ニ任ス

第六十四條第二項

整理委員カ規約ノ定ムル所ニ依リ農工銀行ヨリ借入シタル金額及其ノ利子ニ付テハ參加土地所有者連帶シテ其ノ責ニ任

ス

第六十五條 參加土地所有者費用ヲ完納セサルトキハ市町村長ハ整理委員ノ請求ニ因リ市町村稅徵收ノ方法ニ準シテ之ヲ

徵收ス

參加土地所有者夫役ヲ供給セサルトキハ整理委員ハ金額ニ算出シテ之ヲ徵收ス此ノ徵收ニ付テ亦前項ノ規定ニ依ル

御名 御璽

明治三十六年六月十六日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
大藏大臣男爵曾根荒助

法律第十一號 (官報 六月十七日)

地租條例中左ノ通改正ス

第十條ヲ第十條ノ一トシ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十條ノ二 前條第一項ノ届出アリタルトヤハ其年ヨリ變換地目ニ依リ其地租ヲ徵收ス但其年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部納付後届出アリタルトヤハ翌年ヨリ變換地目ニ依リ其地租ヲ徵收ス

第十六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十七條 前條ニ依リ開墾ノ届出ヲ爲シタル土地又ハ開墾後下年期若クハ地價据置年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ開墾成功シ又ハ地目變換シタルトヤハ其旨政府ニ届出ヘシ此場合ニ於テハ第十條ノ二ノ規定ヲ準用ス

法令全書

豫算

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治三十六年度歳入歳出總豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年六月十日 (官報 六月十一日)

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
大藏大臣男爵曾根荒助

豫算

第一條 明治三十六年度歳入追加額ヲ參拾四萬九千六百九拾七圓歳出追加額ヲ八百拾壹萬八千五百五圓八拾錢參厘ト定ム其款項ノ金額ハ別冊甲號歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

第二條 別冊乙號所掲ノ費途ハ各其規程スル所ニ隨ヒ明治三十六年度以降ノ繼續費ト爲ス

(別冊)

甲號

歳入經常部

第六款 臺灣事業公債償却金繰入 金參拾四萬九千六百九拾七圓

第一項 臺灣事業公債償却金繰入 金參拾四萬九千六百九拾七圓

歳出經常部

外務省所管

第二款 在外公館 金壹萬四千六百七拾六圓四拾五錢參厘

第十二項 地所家屋借料 金壹萬四千六百七拾六圓四拾五錢參厘

內務省所管

- 第九款 土木監督署
 - 第八項 備外國人諸給 金參萬貳千圓
 - 第十款 警視廳
 - 第十項 青牛結核病豫防費 金九千八百參拾四圓六拾錢
 - 第十一款 北海道本廳
 - 第一項 俸給及諸給 金八千五百五拾四圓拾六錢
 - 第二項 廳費 金貳百九拾七圓
 - 第三項 廳費 金五拾五圓五拾錢
 - 第六項 旅費 金六拾六圓六拾六錢
 - 第七項 雜給及雜費 金百四拾五圓拾錢
 - 第十八項 青牛結核病豫防費 金七千五百八拾九圓九拾錢
 - 第十二款 府縣
 - 第一項 俸給及諸給 金拾四萬貳千貳百八圓貳拾錢
 - 第二項 廳費 金五千六百五拾九圓五拾錢
 - 第五項 旅費 金參千六拾七圓
 - 第六項 雜給及雜費 金四千六百四拾七圓
 - 第十二項 畜牛結核病豫防費 金拾貳萬六千九百貳拾七圓貳拾錢
 - 第十三款 地方費
 - 第二項 沖繩縣地方費 金五千貳百七拾貳圓參拾八錢九厘
 - 第十六款 北海道官設鐵道事業費
 - 第一項 俸給及諸給 金七萬四百九拾四圓八拾壹錢參厘
 - 第一項 俸給及諸給 金貳千九百拾六圓

第五項 事業費

內務省所管合計金貳拾六萬七千九百六拾四圓拾六錢貳厘

大藏省所管

- 第三款 恩賞諸祿
 - 第二項 文官恩給 金六拾貳萬六千參百九拾五圓六拾六錢七厘
 - 第三項 軍人恩給 金八萬參百六拾五圓
 - 第四項 學校職員恩給 金五拾貳萬八千八百八拾七圓
 - 第六項 外國人恩給 金壹萬五千五百五拾貳圓
 - 第六款 貴族院
 - 第一項 職員諸費 金千九百九拾壹圓六拾六錢七厘
 - 第三項 廳費 金壹萬四千七百九拾九圓六拾六錢七厘
 - 第四項 修繕費 金壹萬五千貳百四拾八圓六拾六錢七厘
 - 第六項 雜給及雜費 金五千七拾四圓
 - 第七款 衆議院
 - 第一項 職員諸費 金六圓
 - 第三項 廳費 金參千八百七拾七圓
 - 第六項 雜給及雜費 金貳拾七萬九千八百八拾壹圓
 - 第十款 稅關
 - 第一項 俸給及諸給 金貳拾六萬七千五百六拾八圓
 - 第二項 廳費 金七千參百七拾九圓
 - 第七項 雜給及雜費 金四千貳百參拾四圓
 - 第七項 雜給及雜費 金貳千參百拾四圓八拾八錢
 - 第七項 雜給及雜費 金貳百貳拾四圓
 - 第七項 雜給及雜費 金千貳百七拾四圓
 - 第七項 雜給及雜費 金七百拾六圓八拾八錢

第十一款 內國稅徵收費

金壹萬貳千圓

第十三項 營業稅調查費

金壹萬貳千圓

第十六款 製造煙草輸出交付金

金拾四萬貳千六百七拾八圓

第一項 製造煙草輸出交付金

金拾四萬貳千六百七拾八圓

陸軍省所管

第二款 軍事費

金四拾四萬六千七百參拾參圓貳拾六錢八厘

第六項 旅費

金五萬貳百七拾貳圓參拾貳錢八厘

第十項 糧食費

金壹萬六千六百四拾四圓六拾四錢貳厘

第十二項 被服費

金拾參萬參千九百八拾參圓七拾參錢六厘

第十三項 兵器彈藥費

金五萬九千五百參拾參圓參拾壹錢九厘

第十四項 馬匹費

金拾五萬貳千九百參拾五圓貳錢貳厘

第十五項 演習費

金五千四百五拾七圓九拾錢

第十六項 患者費

金參千九百貳拾圓拾四錢四厘

軍隊需用品費

金貳萬參千九百八拾六圓拾七錢七厘

第三款 憲兵費

金貳百參拾參圓參拾七錢

第九項 糧食費

金貳百參拾參圓參拾七錢

陸軍省所管合計金四拾四萬六千九百六拾六圓六拾參錢八厘

第二款 軍事費

金七拾貳萬八千六百四拾壹圓六錢八厘

第一項 俸給及諸給

金貳拾壹萬貳千七拾五圓九拾八錢貳厘

第三項 修繕費

金百六拾參圓貳拾錢

第七項 雜給及雜費

金參百貳拾參圓五拾五錢

第八項 諸手當

金拾萬八千四百八圓四拾八錢四厘

第十項 糧食費

金壹萬九千貳拾貳圓四拾七錢四厘

第十一項 被服費

金拾壹萬八千九百八拾八圓六拾參錢

第十二項 造兵及修理費

金九萬貳千六百六拾參圓

第十三項 造船及修理費

金四千參百九拾參圓五拾錢

第十四項 演習費

金貳千五百六拾參圓四拾錢參厘

第十五項 患者費

金拾七萬百參拾參圓拾九錢五厘

第十七項 糧食費

金拾七萬百參拾參圓拾九錢五厘

司法省所管

金參千六百拾六圓五拾壹錢

第二款 裁判所

金千七百九拾貳圓

第一項 俸給及諸給

金千貳百五拾四圓七拾壹錢

第七項 雜給及雜費

金五百六拾九圓八拾錢

文部省所管

金拾五萬千四百四拾八圓六拾參錢

第六款 諸學校及圖書館支出金

金貳千九拾五圓貳拾七錢六厘

第一項 東京帝國大學

金貳萬六千參百七拾參圓九拾貳錢七厘

第二項 京都帝國大學

金四萬六千九拾壹圓七拾參錢參厘

第四項 第二高等師範學校

金參千八百圓

第六項 札幌農學校

金參千八百圓

第七項 高等農林學校	金貳萬參千貳百四拾八圓五拾九錢參厘
第九項 第二高等商業學校	金貳萬貳千四百貳拾壹圓拾六錢六厘
第十四項 第五高等學校	金貳千貳百八拾參圓九拾壹錢
第十五項 第六高等學校	金參千五百五拾五圓拾參錢八厘
第二十三項 東京高等工業學校	金六百七拾五圓
第二十五項 第三高等工業學校	金壹萬七千參百四拾九圓七拾錢
第二十六項 東京外國語學校	金參千五百五拾四圓拾八錢七厘
第七款 府縣立師範學校長俸給	金四千九拾壹圓壹錢
第一項 府縣立師範學校長俸給	金四千九拾壹圓壹錢
文部省所管合計金拾五萬五千五百參拾九圓六拾四錢	
農商務省所管	
第一款 農商務本省	
第一項 俸給及諸給	金壹萬千八百參拾五圓五拾六錢八厘
第二項 廳費	金五千九百拾壹圓
第六項 旅費	金千九百拾參圓
第七項 雜給及雜費	金貳千五百六拾五圓
第八項 萬國度量衡會費	金千六百圓
第四款 農事試驗場	
第一項 俸給及諸給	金九百八拾圓
第九項 備外國人諸給	金參百八拾圓
第六款 農業講習所	
第一項 俸給及諸給	金貳萬五千八拾七圓拾貳錢

第一項 俸給及諸給	金貳千四百六拾圓
第二項 廳費	金參百九圓五拾貳錢
第六項 旅費	金參百八拾六圓
第七項 雜給及雜費	金九拾圓
第八項 事業費	金貳萬千八百四拾壹圓六拾錢
第八款 馬匹改良費	
第一項 俸給及諸給	金參百貳拾七圓
第十二款 補助費	
第一項 農會補助	金七千貳百圓
第二項 府縣農事試驗場講習所及水產試 驗講習所補助	金參千五百圓
農商務省所管合計金四萬五千四百貳拾九圓六拾八錢八厘	
遞信省所管	
第二款 遞信費	
第一項 俸給及諸給	金五拾參萬五千四百九拾壹圓
第五項 旅費	金壹萬八千拾七圓
第八項 遞信事業費	金壹萬七千九百四拾五圓
第三款 航路補助費	
第一項 俸給及諸給	金四拾九萬九千五百貳拾九圓
第五項 旅費	金壹萬四千四百八拾貳圓
第六項 航路補助事業費	金六千六拾六圓
第五款 商船學校	
第一項 俸給及諸給	金五百五拾圓
第六項 航路補助事業費	金七千八百六拾六圓
第五款 商船學校	金四千貳百九圓

第十項 海上練習費

金四千貳百九圓

遞信省所管合計金五拾五萬四千八百八拾貳圓

歲出經常部合計金參百參拾萬四千參百八拾五圓參拾七錢參厘

歲出臨時部

外務省所管

金五千圓

第一款 營繕費

金五千圓

第一項 在芝罘領事館修築費

金壹萬七千貳百八圓

第二項 在外公館移轉費

金壹萬七千貳百八圓

第一項 在外公館移轉費

金壹萬七千貳百八圓

內務省所管

金百圓

第一款 補助費

金百圓

第二項 京都府池町八幡町間道路修築費

金四千百貳圓五拾四錢五厘

第四款 造神宮使廳

金千四百拾圓

第一項 俸給及諸給

金七百六拾七圓五拾四錢五厘

第二項 旅費

金千圓

第六項 旅費

金千九拾五圓

第七項 雜給及雜費

金千九拾五圓

陸軍省所管

金貳萬五千八百參圓五拾錢

第二款 營繕費

第十四款 特別大演習外賓接待費

金貳萬五千八百參圓五拾錢

第一項 特別大演習外賓接待費

金貳萬四千七百六圓六拾八錢

陸軍省所管合計金五萬五百拾圓拾八錢

海軍省所管

第一款 軍艦製造及建築費

金貳百六拾八萬七千六百八拾貳圓四拾六錢

第一項 造船費

金百貳拾四萬千八拾八圓

第二項 造兵費

金百四拾四萬六千五百九拾四圓四拾六錢

第十二款 災害費

金貳萬七千貳拾圓

第一項 吳造船廠火災復舊費

金貳萬七千貳拾圓

海軍省所管合計金貳百七拾壹萬四千七百貳圓四拾六錢

司法省所管

第一款 營繕費

金七萬參千四百四拾圓拾五錢貳厘

第八項 新營費

金七萬參千四百四拾圓拾五錢貳厘

文部省所管

第二款 設備費

金參萬七千貳百七圓八拾貳錢五厘

第六項 東京高等師範學校附屬小學校校

金九百圓

第七項 第四高等學校校設備費

金千參百圓

第八項 仙臺醫學專門學校校設備費

金千圓

第九項 測地學委員會設備費

金參萬四千七圓八拾貳錢五厘

第十三款 諸學校臨時支出金

金四萬九千七百七拾五圓

第十二項

京都帝國大學醫學部大學圖書
及圖書費支出金

金貳萬七千五百圓

第十三項

農商務省所管
支田金

金壹萬六千六百七拾五圓

支田金 金五千圓

第十七款 聖路易萬國博覽會費

金五拾萬圓

第一項 聖路易萬國博覽會費

金五拾萬圓

通信省所管

第一款 補助費

金百參拾四萬千四百七拾八圓貳拾六錢八厘

第四項 航海獎勵費

金貳拾八萬四千九百九拾貳圓貳拾六錢八厘

第五項 造船獎勵費

金參拾壹萬八千七百圓

第七項 京釜鐵道株式會社補助

金拾六萬八千八百四拾八圓

第八項 北海道鐵道株式會社補助

金五拾四萬千九百參拾八圓

第九項 湖南汽船株式會社補助

金貳萬七千圓

第三款 航路保險費

金貳萬千九百九拾六圓

第九項 修船費

金貳萬千九百九拾六圓

遞信省所管合計金百參拾六萬千六百七拾四圓貳拾六錢八厘

農商務省所管合計金八拾壹萬八千五百五拾圓八拾錢參厘

乙號

第一

軍艦製造及建築費

總額

金九千九百八拾六萬參百五圓貳錢壹厘

金六千貳百參拾四萬八千貳百六拾九圓

金貳千九百萬千參百拾參圓四拾四錢壹厘

金八百五拾壹萬七千貳拾貳圓五拾八錢

年額

明治三十六年度

金貳百六拾八萬七千六百八拾貳圓四拾六錢

金百貳拾四萬千八拾八圓

金百四拾四萬六千五百九拾四圓四拾六錢

明治三十七年度

金六百七拾萬千七拾七圓六拾八錢

金四百貳拾六萬四千六百拾貳圓

金百九拾九萬參千四百貳拾貳圓五拾八錢

金四拾四萬參千四拾參圓拾錢

明治三十八年度

金八百五拾四萬七千貳百貳拾九圓六拾貳錢

金五百萬貳千四圓

款 軍艦製造及建築費

項 造船費

項 造船費

項 建築費

項 建築費

款 軍艦製造及建築費

項 造船費

項 造船費

項 建築費

項 建築費

款 軍艦製造及建築費

項 造船費

項 造船費

項 建築費

項 建築費

款 軍艦製造及建築費

項 造船費

金貳百五拾壹萬五千四百八拾貳錢
金百壹萬九千八百拾六圓八拾錢

項建 兵 費

明治三十九年度

金八百七拾五萬四千四拾貳圓貳拾九錢四厘

款 軍艦製造及建築費

金五百貳拾七萬五千貳百七圓

項造 船 費

金貳百貳拾五萬七百五拾貳圓九錢四厘

項造 兵 費

金百貳拾貳萬八千八拾參圓貳拾錢

項建 築 費

明治四十年度

金千四拾萬千九拾四圓八拾參錢

款 軍艦製造及建築費

金五百七拾貳萬五千四百九拾七圓

項造 船 費

金參百拾貳萬八百七拾貳圓八拾參錢

項造 兵 費

金百五拾五萬四千七百貳拾五圓

項建 築 費

明治四十一年度

金千八百八拾八萬七千百參拾貳圓五拾四錢

款 軍艦製造及建築費

金七百八拾五萬六千參百六拾九圓

項造 船 費

金貳百參萬貳千貳百拾六圓六錢

項造 兵 費

金百九拾九萬八千五百四拾七圓四拾八錢

項建 築 費

明治四十二年度

金千百拾萬五千八百八拾七圓拾錢壹厘

款 軍艦製造及建築費

金五百九拾六萬八千九百拾八圓

項造 船 費

金參百六拾四萬八千七百七拾四圓拾錢壹厘

項建 兵 費

金百四拾八萬八千九拾五圓

項建 築 費

明治四十三年度

金千百拾六萬參千六百六拾圓八拾壹錢四厘

款 軍艦製造及建築費

金五百九拾萬八千九百九拾四圓

項造 船 費

金四百五拾九萬九千貳百五拾四圓八拾壹錢四厘

項造 兵 費

金六拾五萬五千四百拾貳圓

項建 築 費

明治四十四年度

金千貳百貳拾參萬貳千六百四拾參圓拾錢壹厘

款 軍艦製造及建築費

金八百七拾七萬千貳百五拾參圓

項造 船 費

金參百參拾參萬八千參百九拾圓拾錢壹厘

項造 兵 費

金拾貳萬參千圓

項建 築 費

明治四十五年度

金千百參拾五萬六千參百六拾七圓六錢

款 軍艦製造及建築費

金八百四拾參萬七千五百九拾九圓

項造 船 費

金貳百九拾壹萬八千七百六拾八圓六錢

項造 兵 費

明治四十六年度

金五百貳萬四千五百八拾七圓五拾貳錢壹厘

款 軍艦製造及建築費

金參百八拾八萬六千七百貳拾八圓

項造 船 費

金百拾參萬七千四百五拾九圓五拾貳錢壹厘

項造 兵 費

聖路易萬國博覽會費

明治三十六年六月

金八拾萬圓

款 聖路易萬國博覽會費

金八拾萬圓

項 聖路易萬國博覽會費

年額

明治三十六年度

款 聖路易萬國博覽會費

金五拾萬圓

項 聖路易萬國博覽會費

明治三十七年度

款 聖路易萬國博覽會費

金貳拾八萬六千六百參拾壹圓貳拾八錢

項 聖路易萬國博覽會費

金貳拾八萬六千六百參拾壹圓貳拾八錢

項 聖路易萬國博覽會費

明治三十八年度

款 聖路易萬國博覽會費

金壹萬參千參百六拾八圓七拾貳錢

項 聖路易萬國博覽會費

金壹萬參千參百六拾八圓七拾貳錢

項 聖路易萬國博覽會費

○

款 聖路易萬國博覽會費

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ

項 聖路易萬國博覽會費

明治三十六年度歳入歳出總豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

内閣總理大臣 伯爵 桂 太郎

大藏大臣 男爵 齋藤 龍助

明治三十六年六月十日 (官報 六月十一日)

豫算 第一條 明治三十六年度歳入追加額ヲ貳百六拾八萬七千六百八拾參圓貳拾五萬六千

四百六拾參圓八拾五錢壹厘ト定ム其款項ノ金額ハ別册甲號歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

(別册)

甲號 歳入臨時部

第十二款 一時借入金

金貳百六拾八萬七千六百八拾參圓

第一款 一時借入金

金貳百六拾八萬七千六百八拾參圓

農商務省所管

第三款 農務所創立費

金九拾五萬六千四百六拾參圓八拾五錢壹厘

第二款 事務費

金壹萬圓

第三款 工場費

金九拾貳萬貳千五拾四圓

第四項 農務原料採山費

金貳萬四千四百九圓八拾五錢壹厘

乙號

官設既成鐵道改良費

金千四百四拾八萬八千七百四拾圓

官設既成鐵道改良費

金千四百四拾八萬八千七百四拾圓

總額

款 官設既成鐵道改良費

金千四百四拾八萬八千七百四拾圓

項 官設既成鐵道改良費

金千四百四拾八萬八千七百四拾圓

項 官設既成鐵道改良費

年額

明治二十七年 度
 金貳百五拾六萬圓
 明治二十八年 度
 金貳百貳拾萬圓
 明治二十九年 度
 金參百五拾萬圓
 明治四十年 度
 金參百五拾萬圓
 明治四十一年 度
 金百五拾貳萬八千七百四拾圓
 明治四十二年 度
 金貳拾萬圓

款 官股既成鐵道改良費
 項 官股既成鐵道改良費
 款 官股既成鐵道改良費
 項 官股既成鐵道改良費
 款 官股既成鐵道改良費
 項 官股既成鐵道改良費
 款 官股既成鐵道改良費
 項 官股既成鐵道改良費

鐵道建設費

第二

金九千九百拾八萬五千貳百八拾圓
 金四千四百拾壹萬五千七百貳拾五圓
 合計金壹億四千六拾萬千五百圓

既 定 加 額
 追 加 額

金八千八百七拾四萬九千六百參拾參圓
 金五千八百八拾五萬千參百七拾貳圓

明治三十六年度「支山額」
 明治三十七年度「降支出額」

此改定年額左ノ如ク

明治二十七年 度
 金四百貳拾九萬八千七百拾四圓

款 鐵道建設費

金百六拾五萬圓

項 福島青森間鐵道

金五拾五萬圓

項 八王子名古原間鐵道

金百貳拾五萬圓

項 八代鹿兒島間鐵道

金八拾四萬八千七百拾四圓

項 和田山境間鐵道

明治二十八年 度

金九百六拾萬圓

款 鐵道建設費

金參百七拾萬圓

項 福島青森間鐵道

金貳百六拾萬圓

項 八王子名古原間鐵道

金百五拾萬圓

項 八代鹿兒島間鐵道

金百萬圓

項 和田山境間鐵道

金八拾萬圓

項 和知山間部聯絡鐵道

明治二十九年 度

金八百九拾六萬五千七百九拾參圓
 金貳百貳萬參千六百參拾參圓
 金貳百五拾萬圓
 金貳百拾萬圓
 金百參拾四萬貳千六百六拾圓
 金百萬圓
 明治四十年度
 金七百拾八萬千九百貳拾壹圓
 金貳百五拾萬圓
 金貳百萬圓
 金貳百五拾萬圓
 金拾八萬千九百貳拾壹圓
 明治四十一年度
 金七百五拾壹萬六千六百六拾七圓
 金貳百參拾萬圓
 金百六拾壹萬六千六百六拾七圓
 金參百六拾萬圓
 明治四十二年度
 金五百九拾萬圓
 金貳百參拾萬圓
 金參百六拾萬圓

款 鐵道建設費
 項 福島青森間鐵道
 項 八王子名古屋間鐵道
 項 八代鹿兒島間鐵道
 項 和田山境間鐵道
 項 福知山國郡間鐵道
 款 鐵道建設費
 項 八王子名古屋間鐵道
 項 八代鹿兒島間鐵道
 項 和田山境間鐵道
 款 鐵道建設費
 項 八王子名古屋間鐵道
 項 和田山境間鐵道

明治四十三年度
 金四百六拾五萬八千六百六拾九圓
 金貳百參拾萬圓
 金貳百參拾五萬八千六百六拾九圓
 明治四十四年度
 金貳百參拾萬圓
 金貳百參拾萬圓
 明治四十五年度
 金百四拾參萬八百八圓
 金百四拾參萬八百八圓

款 鐵道建設費
 項 八王子名古屋間鐵道
 項 和田山境間鐵道
 款 鐵道建設費
 項 八王子名古屋間鐵道
 款 鐵道建設費
 項 八王子名古屋間鐵道

御名御璽

明治三十六年六月十日（官報六月十二日）

內閣總理大臣伯爵桂 太郎
大藏大臣男爵曾根克助

豫算
 明治三十六年度豫算入追加額ヲ貳百貳拾萬圓歳出追加額ヲ貳百六拾五萬參千六百參拾九圓六拾八錢六厘
 卜定ハ其款項ノ金額ハ別冊歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

(別冊)

第三款 雜收入	金貳百萬圓
第二款 返納金	金貳百萬圓
司法省所管	
第二款 裁判所	金千貳百六拾五圓九拾壹錢
第二款 廳費	金千貳百六拾五圓九拾壹錢
司法省所管	
第一款 營繕費	金壹萬千六百六拾參圓貳拾七錢六厘
第一款 新營費	金壹萬千六百六拾參圓貳拾七錢六厘
農商務省所管	
第十八款 製鐵所据置運轉資本補填	金貳百六拾四萬七百拾圓五拾錢
第一款 製鐵所据置運轉資本補填	金貳百六拾四萬七百拾圓五拾錢
歲出臨時部合計金貳百六拾五萬貳千參百七拾參圓七拾七錢六厘	
歲出總計金貳百六拾五萬參千六百參拾九圓六拾八錢六厘	

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ明治三十六年度各特別會計歲入歲出豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ

御名 御璽

明治三十六年六月十日 (官報 六月十一日)

內閣總理大臣伯爵桂 太郎
大藏大臣伯爵曾禰荒助

各特別會計豫算

第一條 明治三十六年度內務省所管 臺灣總督府、北海道官設鐵道用品資金陸軍省所管東京砲兵工廠、大阪砲兵工廠、千住製鐵所、海軍省所管海軍造船部材料資金、文部省所管東京帝國大學、京都帝國大學、東京高等師範學校、廣島高等師範學校、女子高等師範學校、札幌農學校、盛岡高等農林學校、東京高等商業學校、神戸高等商業學校、第一高等學校、第二高等學校、第四高等學校、第五高等學校、第六高等學校、第七高等學校、造士館、千葉醫學專門學校、仙臺醫學專門學校、岡山醫學專門學校、長崎醫學專門學校、東京高等工業學校、大阪高等工業學校、京都高等工業學校、東京外國語學校、東京美術學校、帝國圖書館、遞信省所管官設鐵道ノ各歲入歲出追加額及其款項ノ金額ハ別冊甲號歲入歲出豫算ニ據ルヘシ

第二條 別冊乙號所掲ノ費途ハ其規畫スル所ニ隨ヒ明治三十六年度以降ノ繼續費トナス

(別冊)

甲號

內務省所管	
臺灣總督府	
歲出	
經帶部	
第十八款 臺灣官設鐵道事業費	金九萬七千七百四拾九圓
第六項 事業費	金九萬千五百九拾圓

第七項 旅費	金貳千四百拾圓
第九項 雜拂戻金	金四千拾九圓
第二十款 歳入經常部繰入	金參拾四萬九千六百九拾七圓
第一項 臺灣事業公債償却金繰入	金參拾四萬九千六百九拾七圓
經常部合計金四拾四萬七千四百四拾六圓	
臨時部	
第一款 特別事業費	金九拾萬圓
第三款 臨時臺灣土地調查費	金九拾萬圓
第十一款 ハス卜病防疫費	金四萬千六百五拾圓
第一項 俸給及諸給	金參千四百五拾貳圓
第二項 購費	金八千五百八拾圓
第三項 修繕費	金五百圓
第四項 旅費	金貳千九百六拾八圓
第五項 雜給及雜費	金貳萬六千五百五拾圓
第十二款 臺灣易萬國博覽會出品費	金參萬六千圓
第一項 臺灣易萬國博覽會出品費	金參萬六千圓
第十三款 匪徒討伐者特別賜金	金參萬五千圓
第一項 匪徒討伐者特別賜金	金參萬五千圓
臨時部合計金百壹萬貳千六百五拾圓	
合計金百四拾六萬九千九拾六圓	
北海道官設鐵道用品資金	

第一款 歳入	金拾貳萬五千圓
第一項 北海道官設鐵道用品賣場代收入	金拾貳萬五千圓
第二款 歳出	
第一款 北海道官設鐵道用品費	金拾貳萬五千圓
第一項 北海道官設鐵道用品費	金拾貳萬五千圓
陸軍省所管	
東京砲兵工廠	
歳出	金四百五拾圓
第一款 東京砲兵工廠作業費	金四百五拾圓
第六項 建造物補修費	
大阪砲兵工廠	
歳出	金貳千七百八拾六圓
第一款 大阪砲兵工廠作業費	金貳千七百八拾六圓
第六項 建造物補修費	
千住製鐵所	
歳出	金貳千七百八拾六圓
第一款 千住製鐵所作業費	金貳千七百八拾六圓
第七項 旅費	
海軍省所管	
海軍造船材料資金	金九百八拾五圓九拾六錢
	金九百八拾五圓九拾六錢

第一項 歲入	金百六拾五萬四千九百五拾九圓
第一項 鎮守府造船材料收入	金百六拾五萬四千九百五拾九圓
第一項 造船材料賣拂代	金百六拾五萬四千九百五拾九圓
第一項 歲出	金百六拾貳萬七千百拾七圓
第一項 鎮守府造船材料費	金百六拾貳萬七千百拾七圓
第一項 造船材料費	金百六拾貳萬七千百拾七圓
文部省所管	
東京帝國大學	
歲入	
經常部	
第一項 東京帝國大學	金貳千九拾五圓貳拾七錢六厘
第一項 政府支出金	金貳千九拾五圓貳拾七錢六厘
歲出	
經常部	
第一項 東京帝國大學	金八千參百拾參圓貳拾錢壹厘
第一項 俸給及諸給	金七千貳百七拾四圓九拾九錢七厘
第二項 廳費	金千參拾八圓貳拾錢四厘
第二項 醫科大學醫院	金千參拾八圓貳拾錢四厘
第一項 廳費	金千參拾八圓貳拾錢四厘
合計金九千參百五拾壹圓四拾錢五厘	
資金部歲出	

第一項 維持資金支出	金五千四百貳拾六圓
第一項 財產購入代	金五千四百貳拾六圓
第二項 特別資金支出	金參百參拾圓九拾六錢壹厘
第一項 行幸恩賜金財產購入代	金百圓
第三項 福岡醫科大學	金五拾圓
第四項 獎學資金錄入	金百八拾圓九拾六錢壹厘
合計金五千七百五拾六圓九拾六錢壹厘	
京都帝國大學	
歲入	
經常部	
第一項 京都帝國大學	金貳萬六千參百七拾參圓九拾貳錢七厘
第一項 政府支出金	金貳萬六千參百七拾參圓九拾貳錢七厘
第三項 特別資金錄入	金六拾圓
第一項 獎學資金	金六拾圓
第四項 福岡醫科大學	金貳千貳百拾圓
第一項 諸收入	金貳千貳百拾圓
第五項 福岡醫科大學醫院收入	金拾貳萬參百拾參圓
第一項 醫院收入	金拾貳萬參百拾參圓
經常部合計金拾四萬八千九百五拾六圓九拾貳錢七厘	
臨時部	
第二項 臨時部	金貳萬七千五百圓
第二項 臨時部	金貳萬七千五百圓
臨時部合計金拾四萬八千九百五拾六圓九拾貳錢七厘	
臨時部合計金拾四萬八千九百五拾六圓九拾貳錢七厘	

第一項 政府支出金	金貳萬七千五百圓
合計金拾七萬六千四百五拾八圓九拾貳錢七厘	
第一項 京都帝國大學	金六千九拾五圓
第二項 俸給及諸給	金六千九拾五圓
第三項 用途指定費	金六拾圓
第四項 福岡醫科大學	金參萬七千九百參拾參圓參拾六錢七厘
第五項 俸給及諸給	金貳萬五千八百拾壹圓六拾六錢七厘
第六項 用途指定費	金八千八百九拾五圓
第七項 修繕費	金五圓
第八項 死傷手当	金貳圓
第九項 賠償及訴訟費	金壹圓
第十項 雜收入過誤納下戻	金六百五拾圓
第十一項 雜給及雜費	金貳千五百六拾七圓七拾錢
第十二項 福岡醫科大學醫院	金拾萬五千八百四拾參圓五拾六錢
第十三項 修繕費	金七萬八千五百四拾四圓六錢
第十四項 修繕費	金貳千九百圓
第十五項 雜給及雜費	金貳萬四千參百九拾九圓五拾錢

經常部合計金拾四萬九千九百參拾壹圓九拾貳錢七厘	
臨時部	
第二項 臨時部	金貳萬七千五百圓
第一項 臨時部	金貳萬七千五百圓
合計金拾七萬七千四百參拾壹圓九拾貳錢七厘	
第一項 特別資金支出	金六拾圓
第二項 獎學資金繰入	金六拾圓
東京高等師範學校	
第三項 東京高等師範學校	
第四項 高等師範學校	金千五百七拾五圓
第五項 高等師範學校	金千五百七拾五圓
第六項 臨時部	
第七項 臨時部	
第八項 臨時部	
第九項 臨時部	
第十項 臨時部	
第十一項 臨時部	
第十二項 臨時部	
第十三項 臨時部	
第十四項 臨時部	
第十五項 臨時部	
第十六項 臨時部	
第十七項 臨時部	
第十八項 臨時部	
第十九項 臨時部	
第二十項 臨時部	
第二十一項 臨時部	
第二十二項 臨時部	
第二十三項 臨時部	
第二十四項 臨時部	
第二十五項 臨時部	
第二十六項 臨時部	
第二十七項 臨時部	
第二十八項 臨時部	
第二十九項 臨時部	
第三十項 臨時部	
第三十一項 臨時部	
第三十二項 臨時部	
第三十三項 臨時部	
第三十四項 臨時部	
第三十五項 臨時部	
第三十六項 臨時部	
第三十七項 臨時部	
第三十八項 臨時部	
第三十九項 臨時部	
第四十項 臨時部	
第四十一項 臨時部	
第四十二項 臨時部	
第四十三項 臨時部	
第四十四項 臨時部	
第四十五項 臨時部	
第四十六項 臨時部	
第四十七項 臨時部	
第四十八項 臨時部	
第四十九項 臨時部	
第五十項 臨時部	
第五十一項 臨時部	
第五十二項 臨時部	
第五十三項 臨時部	
第五十四項 臨時部	
第五十五項 臨時部	
第五十六項 臨時部	
第五十七項 臨時部	
第五十八項 臨時部	
第五十九項 臨時部	
第六十項 臨時部	
第六十一項 臨時部	
第六十二項 臨時部	
第六十三項 臨時部	
第六十四項 臨時部	
第六十五項 臨時部	
第六十六項 臨時部	
第六十七項 臨時部	
第六十八項 臨時部	
第六十九項 臨時部	
第七十項 臨時部	
第七十一項 臨時部	
第七十二項 臨時部	
第七十三項 臨時部	
第七十四項 臨時部	
第七十五項 臨時部	
第七十六項 臨時部	
第七十七項 臨時部	
第七十八項 臨時部	
第七十九項 臨時部	
第八十項 臨時部	
第八十一項 臨時部	
第八十二項 臨時部	
第八十三項 臨時部	
第八十四項 臨時部	
第八十五項 臨時部	
第八十六項 臨時部	
第八十七項 臨時部	
第八十八項 臨時部	
第八十九項 臨時部	
第九十項 臨時部	
第九十一項 臨時部	
第九十二項 臨時部	
第九十三項 臨時部	
第九十四項 臨時部	
第九十五項 臨時部	
第九十六項 臨時部	
第九十七項 臨時部	
第九十八項 臨時部	
第九十九項 臨時部	
第一百項 臨時部	
合計金拾七萬六千九拾壹圓七拾參錢參厘	

明治三十二年六月

二七

第一項 政府支出金

歲出

金四萬六千九拾壹圓七拾參錢參厘

經常部

第一款 第二高等師範學校

金四萬六千九拾壹圓七拾參錢參厘

第一項 俸給及諸給

金壹萬五千七百參拾五圓參拾參錢參厘

第二項 購費

金九千七圓五拾錢

第三項 修繕費

金貳百圓

第七項 旅費

金貳百圓

第八項 雜給及雜費

金貳千五百四拾參圓九拾錢

第九項 學生費

金壹萬貳千七百七拾圓

第十項 備外國人諸給

金五千六百參拾五圓

女子高等師範學校

資金部歲出

金千參百貳拾五圓九錢五厘

第一款 維持資金支出

金千參百貳拾五圓九錢五厘

第一項 財產購入代

金千參百貳拾五圓九錢五厘

札幌農學校

歲入

金參千八百圓

第一款 札幌農學校

金參千八百圓

第一項 政府支出金

金參千四百六拾貳圓九拾七錢四厘

第二款 實驗農場收入

第一項 生產物收入

金參千四百六拾貳圓九拾七錢四厘

合計金七千貳百六拾貳圓九拾七錢四厘

歲出

經常部

第一款 札幌農學校

金參千八百圓

第一項 俸給及諸給

金八百圓

第二項 購費

金參千圓

第二款 實驗農場

金參千四百六拾貳圓九拾七錢四厘

第一項 購費

金六百四拾壹圓五拾五錢四厘

第四項 雜給及雜費

金貳千八百貳拾壹圓四拾貳錢

合計金七千貳百六拾貳圓九拾七錢四厘

資金部歲出

金六百圓

第一款 維持資金支出

金六百圓

第一項 財產購入代

金六百圓

盛岡高等農林學校

歲入

金貳萬四千七百九拾八圓五拾九錢參厘

第一款 高等農林學校

金貳萬參千貳百四拾八圓五拾九錢參厘

第一項 政府支出金

金千五百五拾圓

第二項 諸收入

金千五百五拾圓

臨時部

第一款 圖書標本及家畜費入金

金壹萬六千六百七拾五圓

第一項 政府支出金

金壹萬六千六百七拾五圓

合計金四萬四千四百七拾參圓五拾九錢參厘

歲出

總務部

第一款 高等農林學校

金貳萬四千七百九拾八圓五拾九錢參厘

第一項 俸給及諸給

金壹萬貳千五百六拾五圓八拾參錢參厘

第二項 購費

金八千貳百貳拾六圓貳拾五錢

第三項 旅費

金百八拾五圓貳拾六錢

第四項 雜給及雜費

金參千四百拾七圓貳拾五錢

第五項 修繕費

金貳百圓

第六項 死傷手當

金壹圓

第七項 賠償及訴訟費

金壹圓

第八項 諸收入過誤納下戻

金壹圓

第九項 學生費

金貳百圓

第一款 圖書標本及家畜費

金壹萬六千六百七拾五圓

第一項 圖書標本及家畜費

金壹萬六千六百七拾五圓

合計金四萬四千四百七拾參圓五拾九錢參厘

歲入

第一款 高等商業學校

金六千四拾圓

第二項 諸收入

金六千四拾圓

歲出

總務部

第一款 高等商業學校

金六千四拾圓

第十項 傳外國人諸給

金六千四拾圓

神戸高等商業學校

歲入

第一款 第二高等商業學校

金貳萬五千貳拾壹圓拾六錢六厘

第一項 政府支出金

金貳萬貳千四百貳拾壹圓拾六錢六厘

第二項 諸收入

金貳千六百圓

第一款 圖書及標本費受入金

金五千圓

第六項 政府支出金

金五千圓

合計金貳萬貳拾壹圓拾六錢六厘

歲出

第一款 第二高等商業學校

金貳萬五千貳拾壹圓拾六錢六厘

第二項 俸給及諸給

金壹萬五千五百八拾五圓八拾參錢參厘

第二項 購費	金七千八百拾參圓參拾參錢參厘
第四項 雜給及雜費	金千四百九拾參圓
第五項 修繕費	金四百圓
第六項 死傷手当	金壹圓
第七項 賠償及訴訟費	金貳圓
第八項 諸收入過誤納下戻	金壹圓
第九項 學生費	金五拾圓
第十項 備外國人諸給	金參千六百七拾五圓
臨時部	
第一款 圖書及標本費	金五千圓
第一款 圖書及標本費	金五千圓
合計金參萬貳拾壹圓拾六錢六厘	
第二高等學校	
歲入	
第一款 維持資金支出	金七百圓四拾壹錢八厘
第一款 財產購入代	金七百圓四拾壹錢八厘
第二高等學校	
歲入	
第一款 第二高等學校	金參百貳拾五圓
第二款 諸收入	金參百貳拾五圓

歲出	
經常部	
第一款 第二高等學校	金參百貳拾五圓
第九項 備外國人諸給	金參百貳拾五圓
第四高等學校	
歲入	
第一款 第四高等學校	金九百九拾四圓
第二款 諸收入	金九百九拾四圓
第二款 用途指定寄付金	金八錢六厘
第一款 生徒獎勵資金寄付金	金八錢六厘
第三款 特別資金繰入	金拾九圓九拾壹錢四厘
第一款 生徒獎勵資金	金拾九圓九拾壹錢四厘
合計金千拾四圓	
歲出	
經常部	
第一款 第四高等學校	金九百九拾四圓
第二款 廳費	金九百九拾四圓
第二款 用途指定費	金貳拾圓
第一款 學生費	金貳拾圓
合計金千拾四圓	

第一項 維持資金支出	金四千七百參拾五圓八拾參錢四厘
第二項 財產購入代	金四千七百參拾五圓八拾參錢四厘
第三項 特別資金支出	金拾九圓九拾壹錢四厘
第四項 生徒獎勵資金收入	金拾九圓九拾壹錢四厘
合計金四千七百五拾五圓七拾四錢八厘	
第五高等學校	
收入	
第一項 第五高等學校	金四千四百貳拾五圓
第二項 政府支出金	金貳千貳百八拾參圓九拾壹錢
第三項 諸收入	金貳千四百拾壹圓九錢
支出	
第一項 第五高等學校	金四千四百貳拾五圓
第十項 備外國人諸給	金四千四百貳拾五圓
第一項 維持資金支出	金貳千四百參拾參圓七錢七厘
第二項 財產購入代	金貳千四百參拾參圓七錢七厘
第六高等學校	
收入	

第一項 第六高等學校	金六千參百七拾五圓貳錢
第二項 政府支出金	金參千五百五拾五圓拾參錢八厘
第三項 諸收入	金貳千八百拾九圓八拾八錢貳厘
支出	
第一項 第六高等學校	金六千七百六拾五圓
第二項 俸給及諸給	金四千七百四拾圓
第九項 備外國人諸給	金貳千貳拾五圓
資金部支出	
第一項 維持資金支出	金千九百拾貳圓
第二項 財產購入代	金千九百拾貳圓
第七高等學校造士館	
收入	
第一項 第七高等學校造士館	金七千八百八拾圓九錢八厘
第二項 諸收入	金五千七拾五圓
第三項 寄付金	金貳千八百五圓九錢八厘
第四項 前年度繰入金	金六百八拾六圓四拾七錢貳厘
第五項 用途指定寄付支出殘金	金千六百八拾六圓四拾七錢貳厘
合計金九千五百六拾六圓五拾七錢	

歲出 經常部

第一款 第七高等學校造士館 金九千六百五拾圓
 第一項 俸給及諸給 金九千五百五拾圓
 第二款 廳費 金五百圓

千葉醫學專門學校 資金部歲出

第一款 維持資金支出 金千九百九拾貳圓參拾錢七厘
 第一項 財產購入代 金千九百九拾貳圓參拾錢七厘

仙臺醫學專門學校 資金部歲入

第一款 維持資金收入 金八百圓
 第一項 歲入剩餘繰入 金八百圓

第一款 維持資金支出 金貳千九百參拾圓八拾五錢六厘
 第一項 財產購入代 金貳千九百參拾圓八拾五錢六厘

岡山醫學專門學校 資金部歲出

第一款 維持資金支出 金六百七拾貳圓六拾貳錢五厘
 第一項 財產購入代 金六百七拾貳圓六拾貳錢五厘

第一款 維持資金支出 金六百七拾貳圓六拾貳錢五厘
 第一項 財產購入代 金六百七拾貳圓六拾貳錢五厘

資金部歲出 維持資金支出 金參百拾五圓

第一款 維持資金支出 金參百拾五圓
 第一項 財產購入代 金參百拾五圓

經常部 歲入 東京高等工業學校 金六百七拾五圓

第一款 東京高等工業學校 金六百七拾五圓
 第一項 政府支出金 金六百七拾五圓

第三款 特別資金繰入 金貳千五百五拾八圓
 第一項 生徒獎勵資金 金貳千五百五拾八圓

合計金貳千八百參拾參圓
 歲出

第一款 東京高等工業學校 金六百七拾五圓
 第十項 備外國人諸給 金六百七拾五圓

第二款 用途指定費 金貳千五百五拾八圓
 第一項 學生費 金貳千五百五拾八圓

合計金貳千八百參拾參圓
 資金部歲出

第二款 特別資金支出 金貳千五百五拾八圓
 第一項 獎學資金繰入 金貳千五百五拾八圓

大阪高等工業學校

歳入

第一款 大阪高等工業學校

金千圓

第二款 雑收入

金千圓

歳出

第一款 大阪高等工業學校

金千圓

第一款 俸給及諸給

金千圓

京都高等工藝學校

歳入

第一款 第三高等工業學校

金壹萬八千貳百四拾九圓七拾錢

第二款 政府支出金

金壹萬七千參百四拾九圓七拾錢

第二款 雑收入

金九百圓

歳出

第一款 第三高等工業學校

金壹萬八千貳百四拾九圓七拾錢

第二款 俸給及諸給

金五千參百參拾圓

第二款 雑收入

金壹萬六拾八圓五拾錢

第八項 雜給及雜費

金貳千八百壹圓貳拾錢

第九項 學生費

金五拾圓

東京外國語學校

歳入

第一款 東京外國語學校

金六千參百貳拾四圓五拾壹錢六厘

第二款 政府支出金

金參千七百七拾圓參拾貳錢九厘

第二款 雑收入

金參拾圓

第二款 用途指定寄付金

金參拾圓

第一款 學生費寄付金

金參拾圓

合計金六千參百五拾四圓五拾壹錢六厘

歳出

第一款 東京外國語學校

金六千參百貳拾四圓五拾壹錢六厘

第一款 俸給及諸給

金千貳百六拾圓

第十項 補外國人諸給

金五千六拾四圓五拾壹錢六厘

第二款 用途指定費

金參拾圓

第一款 學生費

金參拾圓

合計金六千參百五拾四圓五拾壹錢六厘

東京美術學校

第一款 雜給費支出

金百參拾肆圓八拾九錢貳厘

第一項 財產購入代

金百參拾參圓八拾九錢貳厘

帝國圖書館

資金部歳出

第一款 維持資金支出

金百拾七圓五拾四錢壹厘

第二項 財產購入代

金百拾七圓五拾四錢壹厘

遞信省所管

官設鐵道

歳入

第一款 鐵道作業收入

金百六萬九千七百八拾四圓

第一項 運輸收入

金九拾七萬參千八百四拾八圓

第二項 雜收入

金九萬五千九百參拾六圓

歳出

第一款 鐵道作業費

金百九萬九千八百七拾七圓

第一項 俸給及諸給

金四萬九千貳百參拾七圓

第二項 死傷手當

金參千貳百八拾參圓

第三項 賠償及訴訟費

金八千貳拾五圓

第五項 諸拂戻及缺損補填金

金七拾七萬五百四拾六圓

第六項 事業費

金貳拾六萬八千七百八拾六圓

乙號

聖路易萬國博覽會出品費

總額

金七萬貳千圓

金七萬貳千圓

年額

明治三十六年度

金參萬六千圓

金參萬六千圓

明治三十七年度

金參萬六千圓

金參萬六千圓

款 聖路易萬國博覽會出品費

項 聖路易萬國博覽會出品費

款 聖路易萬國博覽會出品費

項 聖路易萬國博覽會出品費

款 聖路易萬國博覽會出品費

項 聖路易萬國博覽會出品費

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル明治三十六年度特別會計歳入歳出豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシメ

御名 御璽

明治三十六年六月十日 (宣稱 六月十一日)

内閣總理大臣 伯耆 桂 太郎
大藏大臣 男爵 曾 根 荒助

特別會計豫算

明治三十六年度農商務省所管製鐵所歳出豫算追加額及其款項ノ金額ハ別册歳出豫算ニ據ルヘシ

(別冊)

農商務省所管

製鐵所

歳出

第二款 歳入臨時部繰入

金貳百萬圓

第二項 借入金償還

金貳百萬圓

法令全書

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年六月十日 (官報 六月十一日)

- 内閣總理大臣 伯爵桂 太郎
- 海軍大臣 男爵山本權兵衛
- 逓信大臣 子爵芳川顯正
- 内務大臣 男爵内海忠勝
- 文部大臣 男爵池田大麓
- 農商務大臣 男爵平田東助
- 大藏大臣 男爵曾根荒助
- 外務大臣 男爵小村壽太郎
- 陸軍大臣 寺内正毅

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要スル件

第一

在外各公館ニ於ケル家屋借料ハ左ノ金額ヲ限り借入若クハ借繼ヲ爲スコトヲ得

露國公使館	露貨壹萬參千圓
佛國公使館	佛貨壹萬八千法
獨國公使館	獨貨貳萬麻
「シヤトル」領事館	米貨千八百弗
「シドニー」總領事館	英貨參百六拾磅
「アシウエルヌ」領事館	佛貨四千參百法
「シカゴ」領事館	米貨貳千九百八拾弗
上海總領事館	金參千六百圓
香港領事館	金參千參百六拾圓
新嘉坡領事館	英貨貳百七拾磅
「ボートランド」分館	米貨參百六拾弗

第二 遞信省備外國人一名ニ明治三十六年一月以降終身恩給年金六百圓ヲ支給スルコトヲ得

第三

陸軍軍費ニ係ル糧食費五拾萬圓馬匹費參拾萬圓憲兵費ニ係ル馬匹費六千圓屯田兵費ニ係ル糧食費參千圓ヲ限リ明治三十七年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治三十六年度ニ於テ結フコトヲ得

第四

海軍軍費ニ係ル糧食費五萬圓被服費七萬五千圓造兵及修理費拾萬圓造船及修理費參拾萬圓艦營

費八拾萬圓ヲ限リ明治三十七年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治三十六年度ニ於テ結フコトヲ得

第五

農事試驗場ニ於テ備外國人一名滿期ニ付更ニ備明治三十七年四月一日ヨリ同四十年三月三十一日マテノ期限ヲ以テ俸給月額六百圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國手當六百圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第六

遞信事業費ニ於テ電信電話線保守工事及電信電話事業ニ要スル物品購入費トシテ貳拾五萬圓ヲ限リ明治三十七年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治三十六年度ニ於テ結フコトヲ得

第七

北海道官設鐵道用品資金特別會計ニ於テ北海道官設鐵道用品費四拾萬圓ヲ限リ明治三十七年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治三十六年度ニ於テ結フコトヲ得

第八

臺灣總督府特別會計ニ於テ專賣局作場費五萬圓材料藥品購買費四拾萬圓ヲ限リ明治三十七年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治三十六年度ニ於テ結フコトヲ得

第九

東京砲兵工廠特別會計ニ於テ作場費拾五萬圓材料藥品購買費參拾萬圓大阪砲兵工廠特別會計ニ於テ作場費拾萬圓材料藥品購買費貳拾五萬圓千住製鐵所特別會計ニ於テ材料藥品購買費七拾五萬圓ヲ限リ明治三十七年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治三十六年度ニ於テ結フコトヲ得

第十

鎮守府造船材料資金特別會計ニ於テ造船材料費百萬圓海軍造船材料資金特別會計ニ於テ造船材料費八拾萬圓ヲ限り明治三十七年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治三十六年度ニ於テ結フコトヲ得

第十一

海軍造船材料資金特別會計ニ於テ明治三十七年度以降三箇年間毎年度造船材料費拾萬圓ヲ限り支出スルノ契約ヲ明治三十六年度ニ於テ結フコトヲ得

第十二

東京帝國大學ニ於テ備外國人教師六名滿期ニ付更ニ備置又ハ代員ヲ備入左ノ契約ヲ結フコトヲ得
一 一名ハ明治三十六年九月十一日以後契約ニ定メタル日ヨリ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額六百貳拾五圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給ス
一 一名ハ明治三十六年七月十一日ヨリ同三十九年七月十日マテノ期限ヲ以テ俸給月額六百七拾五圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費六百七拾五圓ヲ支給ス
一 一名ハ明治三十六年十月十七日以後契約ニ定メタル日ヨリ六箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額六百七拾五圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給ス
一 一名ハ明治三十六年八月一日以後契約ニ定メタル日ヨリ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給ス
一 一名ハ明治三十六年十一月十六日ヨリ同三十九年十一月十五日マテノ期限ヲ以テ俸給月額五百五拾圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給ス

一 一名ハ明治三十六年九月二十四日ヨリ同三十九年九月二十三日マテノ期限ヲ以テ俸給月額五百五拾圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給ス

一 以上ノ六名ハ各家具ヲ備ヘル家屋一宇ヲ貸付シ若シ政府ノ都合ニヨリ家屋ヲ貸付セサルトキハ材料トシテ月額四拾圓ヲ支給ス

第十三

京都帝國大學ニ於テ備外國人教師一名滿期ニ付更ニ代員ヲ備入明治三十六年九月一日以後契約ニ定メタル日ヨリ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額六百貳拾五圓宿料月額四拾圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第十四

東京高等師範學校ニ於テ備外國人教師一名滿期ニ付更ニ代員ヲ備入明治三十六年九月一日以後契約ニ定メタル日ヨリ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額參百五拾圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費六百七拾五圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第十五

廣島高等師範學校ニ於テ備外國人教師一名新ニ備入明治三十六年六月一日以後契約ニ定メタル日ヨリ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓宿料月額參拾圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費六百七拾五圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第十六

東京高等商業學校ニ於テ備外國人教師四名滿期ニ付更ニ代員ヲ備入又備外國人教師一名新ニ備入左ノ契約ヲ結フコトヲ得

- 一 一名ハ明治三十六年六月一日以後契約ニ定メタル日ヨリ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費六百七拾五圓ヲ支給ス
- 一 一名ハ明治三十六年八月一日以後契約ニ定メタル日ヨリ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額貳百五拾圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費六百七拾五圓ヲ支給ス
- 一 一名ハ明治三十六年八月一日以後契約ニ定メタル日ヨリ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額百五拾圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費百六拾圓ヲ支給ス
- 一 一名ハ明治三十六年九月四日以後契約ニ定メタル日ヨリ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費六百七拾五圓ヲ支給ス
- 一 一名ハ明治三十六年六月一日以後契約ニ定メタル日ヨリ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給ス

第十七

神戸高等商業學校ニ於テ備外國人教師一名新ニ備入明治三十六年六月一日以後契約ニ定メタル日ヨリ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費六百七拾五圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第十八

第二高等學校ニ於テ備外國人教師一名滿期ニ付更ニ代員ヲ備入明治三十六年九月一日以後契約ニ定メタル日ヨリ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓宿料月額參拾圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第十九

第三高等學校ニ於テ備外國人教師三名滿期ニ付更ニ備繼各明治三十六年八月一日ヨリ同三十八年七月三十一日マテノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓ヲ支給シ且家具ヲ備ヘサル家屋一字ヲ貸付シ若シ政府ノ都合ニ依リ家屋ヲ貸付セサルトキハ宿料トシテ月額參拾圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第二十

第四高等學校ニ於テ備外國人教師二名滿期ニ付更ニ備繼各明治三十六年九月十一日ヨリ同三十九年九月十日マテノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓宿料月額拾圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第二十一

第五高等學校ニ於テ備外國人教師三名滿期ニ付更ニ代員ヲ備入左ノ契約ヲ結フコトヲ得

- 一 一名ハ明治三十六年八月一日以後契約ニ定メタル日ヨリ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費六百七拾五圓ヲ支給ス
- 一 一名ハ明治三十六年八月一日以後契約ニ定メタル日ヨリ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給ス
- 一 以上ノ二名ハ各家具ヲ備ヘサル家屋一字ヲ貸付シ若シ政府ノ都合ニ依リ家屋ヲ貸付セサルトキハ宿料トシテ月額貳拾五圓ヲ支給ス
- 一 一名ハ明治三十六年八月一日以後契約ニ定メタル日ヨリ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓宿料月額貳拾五圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費六百七拾五圓ヲ支給ス

第二十二

第六高等學校ニ於テ備外國人教師二名滿期ニ付更ニ備繼又ハ代員ヲ備入左ノ契約ヲ結フコトヲ得

一 一名ハ明治三十六年九月一日ヨリ同三十九年八月三十一日マテノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓
宿料月額參拾圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費六百七拾五圓ヲ支給ス

一 一名ハ明治三十六年九月一日以後契約ニ定メタル日ヨリ三箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓
宿料月額參拾圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給ス

第二十三

東京高等工業學校ニ於テ備外國人教師一名滿期ニ付更ニ代員ヲ備入明治三十六年七月一日以後契
約ニ定メタル日ヨリ三箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓宿料月額四拾圓ヲ支給シ且滿期解備ノ
際歸國旅費六百七拾五圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第二十四

東京外國語學校ニ於テ備外國人教師五名滿期ニ付更ニ備繼又ハ代員ヲ備入左ノ契約ヲ結フコトヲ
得

一 一名ハ明治三十六年九月一日ヨリ同三十九年八月三十一日マテノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓
ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費七百圓ヲ支給ス

一 一名ハ明治三十六年九月一日以後契約ニ定メタル日ヨリ三箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓
ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費七百圓ヲ支給ス

一 二名ハ各明治三十六年九月一日以後契約ニ定メタル日ヨリ三箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額貳
百五拾圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費七百圓ヲ支給ス

一 二名ハ明治三十六年十二月二十三日ヨリ同三十九年十二月二十二日マテノ期限ヲ以テ俸給月
額參百圓ヲ支給シ且滿期解備ノ際歸國旅費七百圓ヲ支給ス

第二十五

官設鐵道用品資金特別會計ニ於テ官設鐵道用品費七百九拾萬六千圓ヲ限リ明治三十七年度ニ於テ
國庫ノ負擔トナルハキ契約ヲ明治三十六年度ニ於テ結フコトヲ得

○ 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルハキ契約ヲナスヲ要スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ
公布セシム

御名 御璽

明治三十六年六月十日 (官報六月十一日)

内閣總理大臣 伯耆 桂 太郎
大藏大臣 男爵 曾根 荒助

豫算外國庫ノ負擔トナルハキ契約ヲナスヲ要スル件

政府ハ明治三十六年度ニ於テ臨時艦艇製造費ノ財源ニ充ツル爲メ左ノ條件ニ依リ金額貳百六拾八
萬八千圓ヲ限度トシ一時借入ヲ爲スノ契約ヲ結フコトヲ得

一 利子一箇年百分ノ七以内
一 期限ハ借入ノ日ヨリ二箇年以内

法令全書

勅令

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ稅務監督局稅務署及專賣局職員特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

御名 御璽

明治三十六年一月十四日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
大藏大臣男爵曾根荒助

勅令第一號(官報一月十五日)

第一條 明治三十二年勅令第百八十三號ニ依リ任用セラレタル臨時沖繩縣土地整理事務局書記ニシテ現ニ其ノ官ニ在ル者及廢官ニ係ル者ハ稅務監督局、稅務署及專賣局ノ判任官ニ任用スルトヲ得但シ同令第三條第一項ニ依リ任用セラレタル者ハ月俸十五圓未満ノ判任官ニ限リ任用スルコトヲ得

前項但書ニ依リ任用セラレタル者ハ其ノ勤績年數ヲ通算シテ明治二十六年勅令第百九十六號第二條ヲ適用スルコトヲ得

第二條 臨時沖繩縣土地整理事務局助手ニシテ明治二十六年勅令第百九十六號第一條ニ依リ稅務監督局、稅務署及專賣局ノ判任官ニ任用セラレタル者ハ其ノ勤績年數ヲ通算シテ同令第二條ヲ適用スルコトヲ得

朕警視廳ニ臨時防疫職員ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年一月十九日

内閣總理大臣伯耆桂 太郎
内務大臣男爵内海忠勝

勅令第二號(官報一月二十日)

第一條 「ハスト」豫防ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲警視廳ニ臨時左ノ職員ヲ置キ第三部ニ屬セシム

防疫事務官

專任

三人

檢疫醫

專任

九十八

防疫書記

專任

五人

監吏

專任

九十八

第二條 防疫事務官ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第三條 檢疫醫書記及監吏ハ警視廳監之ヲ命ス

第四條 官吏ニシテ第一條ノ職員タル者ハ各其ノ本官ノ待遇ヲ受ク其ノ官ニ在ラサル者ノ待遇ハ防疫事務官ニ在リテハ奏任其ノ他ノ者ニ在リテハ判任トス

第五條 官吏ニシテ第一條ノ職員ヲ兼ムル者ニハ一箇年六百圓以內其ノ他ノ者ニハ一箇月百五十圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得但シ檢疫醫專任書記及監吏ニ支給スヘキ手當ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

朕明治三十三年勅令第三十九號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年一月二十日

農商務大臣男爵平田東助
大藏大臣男爵曾根荒助

勅令第三號(官報一月二十一日)

明治三十三年勅令第三十九號中「本令發布ノ日ヨリ三箇年間に限リ」ヲ削ル

〔參照〕

明治三十三年二月二十日勅令第三十九號ハ製糖所ノ鐵山採掘及精糖製造ノ請買並採掘ヨリ生スル不用生産物糖下ハ本令發布ノ日ヨリ三箇年間に限リ競争ニ付セズ糖業契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ナリ

朕明治三十二年勅令第三百四十二號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年一月二十一日

大藏大臣男爵曾根荒助

勅令第四號(官報一月二十二日)

明治三十二年勅令第三百四十二號中左ノ通改正ス

第二條 室蘭港ニ於テハ左ノ物品ニ限リ輸入ヲ爲スコトヲ得

砂糖

飲食物(關稅定率法附屬輸入稅表第一)

靴條及靴條附屬ノ靴條繩釘チニハ、ス、ト、ク、ス、バ、イ、キ、ス、マ、ヒ、シ、ン、フ、レ、ー、ツ

農具、工器具及同部分品

苧麻繩索

印刷料紙

色油

油蠟(關稅定率法附屬輸入稅表第一)

免稅品(關稅定率法附屬輸入稅表第一)

附則

本令ハ明治三十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第三百四十二號(明治三十二年七月十三日官報抄録)

第二條 舊關稅ニ於テハ、右ノ稅率ニ依リ、他大關大臣ノ指定シタル物品ノ輸出ニ限リ之ヲ關稅ニシテ

大關稅率第三十七號(明治三十二年七月十七日)抄録

明治三十二年勅令第三百四十二號第二條ニ依リ左ノ物品ヲ指定ス

廢物 木炭 「セメント」 硫磺 山梅炭 麵粉 木材及板 竹材

朕明治三十六年勅令第三十八號改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年一月二十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第五號(官報一月二十二日)

第一條 帝國ノ海岸及海面ヲ分チテ四海軍區トス其ノ區並ハ左ノ如シ

第一海軍區 羽後國與國界ヨリ本土東海岸及同南海岸ニ沿ヒ紀伊國南牟婁郡界ニ至ルノ海岸海面及小笠原島ノ海岸海面並北海道ノ海岸海面

第二海軍區 紀伊國南牟婁郡界ヨリ長門國大津灣浦郡界ニ至リ又筑前國遠賀宗像郡界ヨリ九州東海岸ニ沿ヒ日向大隅國界ニ至ルノ海岸海面及四國ノ海岸海面並内海

第三海軍區 筑前國遠賀宗像郡界ヨリ九州西海岸及同南海岸ニ沿ヒ日向大隅國界ニ至ルノ海岸海面及豐後國津門郡界ノ海岸海面並臺灣澎湖列島ノ海岸海面

第四海軍區 長門國大津灣浦郡界ヨリ本土西海岸ニ沿ヒ羽後國與國界ニ至ルノ海岸海面及隱岐

佐渡ノ海岸海面

第三條 各海軍區ニ軍港ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一海軍區軍港

相模國三浦郡横須賀

第二海軍區軍港

安藝國安藝郡吳

第三海軍區軍港

肥前國東彼杵郡佐世保

第四海軍區軍港

丹後國加佐郡舞鶴

明治三十六年一月 勅令 第五號

五

第三條 要港ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 各海軍區ハ其ノ軍港ニ置ク所ノ鎮守府ヲシテ之ヲ管セシム

朕艦船乘組准士官以上候補生及文官遠洋ニ航海スルトキ支度手當ヲ給スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年一月二十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第六號(官報一月二十九日)

艦船四箇月以上ノ豫定ヲ以テ東經九十度以西、西經百四十度以東、南緯三十四度以南、北緯六十度以北ニ航海スルトキハ該艦船乘組准士官以上、候補生及文官ニハ別表ニ依リ支度手當ヲ給ス但シ第一期練習中ノ候補生ニハ之ヲ給セズ

(別表)

支度手當表	
將官及相當官	上長官 十 官 兵曹長及候補生
二百五十圓	百 圓 七十圓 三十圓 二十五圓
<small>艦長タル上長官ニハ五十圓ヲ附加ス 高等文官ニ等以上ハ將官及相當官 五等以上ハ上長官六等以下ハ士官 候補及判任 文官ハ候補生准士官ノ額トス</small>	

朕艦密顧問ノ諮詢ヲ經テ海軍下士卒服役條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年一月二十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第七號(官報一月三十一日)

海軍下士卒服役條例中左ノ通改正ス

第十條第三項ヲ削ル

第十六條ノ二 現役下士卒服役中七箇年間所在不明ノ者及戰地ニ臨ミタル者沈没シタル艦船中ニ

在リタル者其ノ他死亡ノ原因タルヘキ危難ニ遭遇シタル者ニシテ戰事止ミタル後、艦船ノ沈没

シタル後又ハ其ノ他ノ危難ノ去リタル後三箇年所在不明ノ者ハ其ノ現役ヲ免スルコトヲ得現役

ニ服シタル日數四箇年以上ニシテ三箇年間所在不明ノ者及現役ニ服シタル日數四箇年以上ニシ

テ屢刑又ハ罰ニ觸レ改悛ノ見込ナキ者亦同シ

前項ニ依リ現役ヲ免スヘキ者アリト認ムルトキハ艦團其ノ他各部ノ長之ヲ所管長官ニ上申レ所

管長官ハ之ヲ本人在籍鎮守府ノ司令長官ニ移牒シ該長官ハ之ヲ審査シ現役ヲ免ス

第十七條中算入セズ」下ニ「所在不明ノ者ハ其ノ所在不明中ノ日數亦同シ」ヲ加フ

第三十六條第一項中「死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中」ヲ「死亡シ又ハ所在不明トナリタル

者アルトキ及所在不明中」ニ改メ「失踪者ノ歸郷シタルトキ」ヲ「所在不明ノ者歸郷シタルトキ」ニ改

第四十四條中「既辰ノ月ヨリ起算ス」ヲ「既辰ノ日ヨリ起算ス」ニ改ム
第四十五條第一項中「刑ニ處セラレタルトキハ」ハ「懲罰要港部其ノ他各部ノ長ヨリ」ヲ「身上ニ異動ヲ生
ス通達ヲ發スルモノアリタルトキハ在籍領守府長官ヨリ」ニ改ム

〔發布〕

勅令第百二十四號海軍中士卒服役條例(明治三十一年六月二十三日官報抄録)
第十條 海軍中士卒ハ三箇年ヲ一期トシ之ヲ滿テハ復シ別ニ勅令ヲ以テ定ムル服役ノ義務アル者ニ在
ルハ其ノ義務終ル迄ヲ一期トシモトス
三箇年以内ニ服役年限満テシ者ハ其ノ再服役ヲ爲サント欲スル者ハ定年限迄之ヲ請フヘシ
第一項在籍ノ場合ニ於テハ第一箇年ニ滿テタル日ヨリハ二箇年ニ滿テタル日ヨリハ三箇年ニ滿テタル日ヨリハ
第十七條 現役中發病ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者ハ九箇月ヲ越テ他方ニ赴キ故ナク歸者ノ期ニ後レタル者ニ對シテ
ハ其ノ刑期日數又ハ逃亡中ノ日數若ハ歸期ニ後レタル日數ヲ現役年功ニ算入セス
第三十六條 懲罰要港部發病中士卒ハ其ノ死亡又ハ失蹤シタル者アルトキハ十四日以内ニ其
ノ月主簿中發病中士卒ノ姓名ヨリ市町村長ヲ經テ在籍領守府ノ長官ニ届出シテ失蹤者ノ歸郷シタルトキ若ハ其ノ所在
ヲ知得タルトキ亦同シ
第四十四條 下士卒ノ服役二箇年滿テハ海軍兵隊ニ登用セル既辰ノ月ヨリ起算ス
第四十五條 下士卒現役若ハ召集中刑ニ處セラレタルトキハ懲罰要港部其ノ他各部ノ長ヨリ本人在籍ノ地方廳ニ通知ス

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ災害地地租延納ニ關ス
ル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年二月二日

- 内閣總理大臣 伯耆 桂 太郎
- 海軍大臣 伯爵 山本 權兵衛
- 逓信大臣 子爵 芳川 顯正
- 内務大臣 伯爵 内海 忠勝
- 文部大臣 伯爵 菊池 大麓
- 農商務大臣 伯爵 平田 東助
- 司法大臣 伯爵 清浦 奎吾
- 大藏大臣 伯爵 曾根 荒助
- 外務大臣 伯爵 小村 壽太郎
- 陸軍大臣 寺内 正毅

勅令第八號(官報二月三日)
第一條 災害又ハ天候ノ不順ニ因リ府縣ノ全部若ハ一部ニ亙リ田畑ノ收穫皆無ニ歸シタル場合ニ
於テ其ノ地租ヲ納ムヘキ者ニシテ所轄稅務署ニ於テ納稅ノ資力ナシト認メタルトキハ本令ニ依
リ三年以内ノ期間ヲ以テ年賦延納ヲ許可スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ延納ノ許可ヲ得トスル者ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ前條ニ該當スルコトヲ證明シ所轄稅務署ニ出願スヘシ

第三條 本令ニ依ル被害調査中ハ地租ノ徵收ヲ猶豫ス

附則

第四條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 本令ノ規定ハ第二條ヲ除クノ外之ヲ明治三十五年分地租ニ準用ス

前項ニ依リ延納ノ許可ヲ得トスル者ハ本令施行後三十日以内ニ第一條ニ該當スルコトヲ證明シ所轄稅務署ニ出願スヘシ

○ 朕明治三十六年度ニ於テ前年度豫算施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年二月五日

内閣總理大臣 伯耆 桂 太郎
海軍大臣 男爵 山本 權兵衛
逓信大臣 子爵 芳川 顯正
內務大臣 男爵 內海 忠勝
文部大臣 男爵 菊池 大麓
農商務大臣 男爵 平田 東助
司法大臣 男爵 清浦 奎吾

大藏大臣 男爵 曾 禰 荒助
外務大臣 男爵 小村 壽太郎
陸軍大臣 寺內 正毅

勅令第九號 (官報 二月六日)

○ 明治三十六年度ニ於テハ憲法第七十一條ニ依リ前年度ノ豫算ヲ施行ス

朕旅團司令部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年二月十三日

陸軍大臣 寺內 正毅

勅令第十號 (官報 二月十四日)

○ 旅團司令部條例中左ノ通改正ス

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

步兵旅團長ハ該旅管ニ於ケル 聯隊區司令部、沖繩警備隊區司令部ノ徵兵事務ヲ監督ス

○ 朕聯隊區司令部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年二月十三日

陸軍大臣 寺內 正毅

勅令第十一號 (官報二月十四日)

聯隊區司令部條例中左ノ通改正ス

第二條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ徵兵事務ニ關シテハ尙舊該旅管ニ於ケル歩兵旅團長ノ監督ヲ受ク

〔參照〕

勅令第五十六號聯隊區司令部條例(明治二十九年三月二十六日官報)抄錄
第二條 司令官ハ團團長ニシテ聯隊區内徵兵事務及召集事務ヲ掌ル

朕沖繩警備隊區司令部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年二月十三日

陸軍大臣寺內正毅

勅令第十二號 (官報二月十四日)

沖繩警備隊區司令部條例中左ノ通改正ス

第二條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ徵兵事務ニ關シテハ尙舊該旅管ニ於ケル歩兵旅團長ノ監督ヲ受ク

〔參照〕

勅令第三十六號沖繩警備隊區司令部條例(明治三十一年三月八日官報)抄錄
第二條 司令官ハ旅團團長ニシテ警備隊區内徵兵事務及召集事務ヲ掌ル

朕陸軍管區表改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年二月十三日

陸軍大臣寺內正毅

勅令第十三號 (官報二月十四日)

陸軍管區表左ノ通改正ス

陸軍管區表		管	府	縣
第	第	管	府	縣
一	一	長野	長野	山梨
二	二	群島	群島	山梨
三	三	神奈川	神奈川	山梨
四	四	東京	東京	山梨
五	五	小笠原島	小笠原島	山梨
六	六	千葉	千葉	山梨
七	七	茨城	茨城	山梨
八	八	水戸	水戸	山梨
九	九	群馬	群馬	山梨
十	十	栃木	栃木	山梨
十一	十一	茨城	茨城	山梨
十二	十二	群馬	群馬	山梨
十三	十三	水戸	水戸	山梨
十四	十四	群馬	群馬	山梨
十五	十五	栃木	栃木	山梨
十六	十六	茨城	茨城	山梨
十七	十七	群馬	群馬	山梨
十八	十八	水戸	水戸	山梨
十九	十九	群馬	群馬	山梨
二十	二十	栃木	栃木	山梨
二十一	二十一	茨城	茨城	山梨
二十二	二十二	群馬	群馬	山梨
二十三	二十三	水戸	水戸	山梨
二十四	二十四	群馬	群馬	山梨
二十五	二十五	栃木	栃木	山梨
二十六	二十六	茨城	茨城	山梨
二十七	二十七	群馬	群馬	山梨
二十八	二十八	水戸	水戸	山梨
二十九	二十九	群馬	群馬	山梨
三十	三十	栃木	栃木	山梨
三十一	三十一	茨城	茨城	山梨
三十二	三十二	群馬	群馬	山梨
三十三	三十三	水戸	水戸	山梨
三十四	三十四	群馬	群馬	山梨
三十五	三十五	栃木	栃木	山梨
三十六	三十六	茨城	茨城	山梨
三十七	三十七	群馬	群馬	山梨
三十八	三十八	水戸	水戸	山梨
三十九	三十九	群馬	群馬	山梨
四十	四十	栃木	栃木	山梨
四十一	四十一	茨城	茨城	山梨
四十二	四十二	群馬	群馬	山梨
四十三	四十三	水戸	水戸	山梨
四十四	四十四	群馬	群馬	山梨
四十五	四十五	栃木	栃木	山梨
四十六	四十六	茨城	茨城	山梨
四十七	四十七	群馬	群馬	山梨
四十八	四十八	水戸	水戸	山梨
四十九	四十九	群馬	群馬	山梨
五十	五十	栃木	栃木	山梨

附則

本令ハ明治三十六年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十五年四月廿二日法律第五十號ハ出生ノ日ヨリ起算スルノ件ナリ

朕海軍准士官下士任用進級條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年二月十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第十五號(官報二月十七日)

海軍准士官下士任用進級條例中左ノ通改正ス

第十一條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ收禁後無罪ノ宣告ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十四條第一項中其ノ艦隊ニ屬スル者ハ艦隊司令長官ヲ其ノ艦隊司令長官ニ屬スル者ハ艦隊司令長官、要港部司令官ニ屬スル者ハ要港部司令官ニ改ム

第十七條中「拔擢ノ勳勞」下ニ「顯著ノ成績者ハ俊秀ノ伎倆」ヲ加フ

〔參照〕

勅令第三百一號海軍准士官下士任用進級條例(明治二十九年九月七日官報)抄録
第十一條 逃亡、收禁、處刑及自己ノ願ニ依リ離省中ノ日數ニ正當ノ理由ナクテ放ノ捕獲トナリタル間ノ日數ハ實役停

年ニ算入スルコトヲ得ス

第十四條 下士ノ任用進級ハ在野留守府司令長官之ヲ行ヒ其ノ艦隊ニ屬スル者ハ艦隊司令長官之ヲ行フ

第十七條 職勤若クハ事變ニ際シ勳勞アル者又ハ多年現役ニ服シ任用進級資格ヲ備ヘ且拔擢ノ勳勞アル者ニシテ現役ヲ退

キタルトハ其ノ際特ニ任用進級セシムルコトヲ得但シ恩給ヲ受クル資格ニ在ラハ前官等若クハ前職ニ依ル

朕茲ニ故元帥陸軍大將大勳位功二級彰仁親王國葬ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治三十六年二月十八日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎

勅令第十六號

元帥陸軍大將大勳位功二級彰仁親王薨去ニ付特ニ國葬ヲ行フ

朕臺灣省有森林原野及產物特別處分令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年二月二十五日

内務大臣男爵内海忠勝
大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第十七號(官報二月二十六日)

臺灣省有森林原野及產物特別處分令中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一號ヲ加フ

十八 伐採期ニ達シタル耕地ノ林野ノ產物ヲ林業ノ經驗ヲ有シ且相當ノ資産ヲ有スル者ニ限り
賣拂フトキ

〔參照〕

勅令第三百十一號臺灣官有森林原野及產物特別處分令(明治二十九年九月二十三日官報抄録)
第一條 臺灣總督ハ左ノ場合ニ限り官有森林原野及其ノ產物ヲ取手ニ付セシメ隨意ノ契約ヲ以テ賣渡シ又ハ賣渡スコトヲ得

朕明治三十年勅令第九號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年二月二十五日

内閣總理大臣伯耆桂 太郎
内務大臣男爵内海忠勝
大藏大臣男爵曾根荒助

勅令第十八號(官報 二月二十六日)

明治三十年勅令第九號中左ノ通改正ス

第一項中「貨幣及銀行ニ關スル政務」ヲ「貨幣、銀行及關稅ニ關スル政務」ニ改ム

〔參照〕

勅令第九號(明治三十年二月一日官報)
臺灣ニ於ケル貨幣及銀行ニ關スル政務ハ大藏大臣ノ管理ニ屬セシム
前項ノ政務ニ就テハ臺灣總督ハ大藏大臣ノ監督ヲ承ケルモノトス

朕清國駐在製鐵所官吏給與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年二月二十八日

農商務大臣男爵平田東助
大藏大臣男爵曾根荒助

勅令第十九號(官報 三月二日)

第一條 鐵鑛購入ノ爲清國ニ駐在ヲ命セラレタル製鐵所官吏ニハ駐在手當ヲ給シ農商務大臣ノ認

許ヲ得テ妻ヲ駐在地ニ在留セシムルトキハ加給手當ヲ給ス

手當ノ額ハ別表ニ依ル

第二條 前條第一項ニ依リ妻ヲ駐在地ニ携帶シ又ハ往返セシムルトキハ赴任及歸朝臨時歸朝ノ場

合ニ限り妻ノ旅費ヲ給スルコトヲ得共ノ支給ニ關シテハ農商務大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年勅令第三百八十八號ハ之ヲ廢止ス

(別表)

官名	駐在手當年額	加給手當年額
高等官	千二百圓以内	三百圓以内
中級官	六百圓以内	百五十圓以内

〔參照〕

明治三十三年九月二十勅令第三百八十八號ハ清國駐在領事館所屬員月俸ノ件ナリ

朕海軍志願兵條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第二十號(官報 三月三日)

海軍志願兵條例中左ノ通改正ス

第二條 海軍志願兵トシテ徵募スヘキ卒ノ種別ハ左ノ如シ

水兵、軍樂生、木工、機關兵、鑛冶、看護、主廚

第三條 志願兵トシテ徵募シタル水兵中適當ノ者ハ所要ニ應ジ之ヲ信託兵ニ轉セシム共ノ規程ハ

海軍大臣之ヲ定ム

第五條ノ二 左ニ掲クル者ハ志願兵ニ採用スルコトヲ得ス

一 身體完全ナラサル者

二 品行方正ナラサル者

三 無教育ノ者

四 前各號ニ掲クル者ノ外海軍軍人ノ服役ニ適セサル者

第七條ノ二 志願兵現役中殊ニ勤勞ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアルヘシ

〔參照〕

勅令第七十一號海軍志願兵條例(明治三十二年三月二十八日官報)抄録

第二條 海軍志願兵トシテ徵募スヘキ卒ノ種別ハ左ノ如シ

水兵、軍樂生、軍樂生、木工、機關兵、鑛冶、看護、主廚

第三條 信託兵ハ所要ニ應ジ水兵中ヨリ適當ノ者ヲ選ミ之ニ轉セシム共ノ規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

朕法制局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十三日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎

勅令第二十一號(官報 三月十四日)

法制局官制中左ノ通改正ス

第二條中「參事官專任十人委任」ノ下ニ「内二人ヲ助任トシテ加ヘ但書ヲ削ル」ヲ加ヘ但書ヲ削ル

〔參照〕

勅令第四十八號法制局官制(明治二十六年十月三十一日官報)抄録

第二條中

參事官 專任十人 委任

但シ内二人ハ助任トス

明治三十六年三月 勅令 第二十一號

○ 朕北海道官設驛遞所土地建物及附屬物件無償付與ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十三日

内務大臣男爵内海忠勝

勅令第二十二號 (官報 三月十四日)

北海道廳長官ハ官設驛遞所存立ノ必要ナシト認ムル場合ニ於テハ五箇年以上引續キ其ノ驛ニ在勤
シ功勞顯著ナル驛遞取扱人ニ該驛舎敷地牧場及馬匹其ノ他ノ附屬物件ヲ無償ニテ付與スルコト
ヲ得

○ 和續人カ引續キ驛遞取扱人タルトキハ其ノ勤務年數ニ前驛遞取扱人ノ勤務年數ヲ通算ス

○ 朕郵便電信電話官署ノ現金受拂ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十三日

逓信大臣子爵芳川顯正
大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第二十三號 (官報 三月十四日)

郵便電信電話官署ノ出納官吏ハ歳入金歳出金並歳入歳出外現金ノ交互振替及繰替受拂ヲ爲スコト
ヲ得其ノ取扱ニ關スル規程ハ逓信大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附則

○ 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○ 朕法典調查會規則廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
司法大臣男爵清浦奎吾

勅令第二十四號 (官報 三月二十日)

法典調查會規則ハ之ヲ廢止ス

附則

○ 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○ 朕内務省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
内務大臣男爵内海忠勝

勅令第二十五號 (官報 三月二十日)

内務省官制中左ノ通改正ス

第二條 總務局ニ於テハ通則ニ掲グルモノノ外褒賞及臺灣ニ關スル事務ヲ掌ル
第五條ニ左ノ一號ヲ加フ

九 北海道ニ於ケル林野、官設鐵道及拓殖ニ關スル事項其ノ他北海道ニ關スル事項ニシテ他局
ノ所掌ニ屬セサルモノ

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第三百五十九號內務省官制(明治三十一年十月二十二日)抄録
第二條 總務局ニ於テハ通則ニ掲グルモノノ外褒賞及臺灣ニ關スル事務並北海道ニ於ケル林野、官設鐵道及拓殖ニ關スル事
務其ノ他北海道ニ關スル事務ニシテ他局ノ所掌ニ屬セサルモノヲ掌ル
第五條 地方局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

朕醫術開業試驗委員官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

内閣總理大臣 伯爵 桂 太郎
内務大臣 男爵 内海忠勝
文部大臣 士勇爵 菊池大麓

勅令第二十六號(宣稱 三月二十日)

醫術開業試驗委員官制中左ノ通改正ス

第一條第三條及第六條中「内務大臣」ヲ「文部大臣」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕藥劑師試驗委員官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

内閣總理大臣 伯爵 桂 太郎
内務大臣 男爵 内海忠勝
文部大臣 士勇爵 菊池大麓

勅令第二十七號(宣稱 三月二十日)

藥劑師試驗委員官制中左ノ通改正ス

第一條第三條及第六條中「内務大臣」ヲ「文部大臣」ニ改ム

第十條中「内務局」ヲ「文部局」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕土木會規則廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

勅令第二十八號(官報三月二十日)

土木會規則ハ之ヲ廢止ス

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○ 朕港灣調査會規則廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

勅令第二十九號(官報三月二十日)

港灣調査會規則ハ之ヲ廢止ス

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○ 朕地方衛生會規則廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
内務大臣男爵内海忠勝

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
内務大臣男爵内海忠勝

明治三十六年三月十九日

勅令第三十號(官報三月二十日)

地方衛生會規則ハ之ヲ廢止ス

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○ 朕北海道衛生會規則廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

勅令第三十一號(官報三月二十日)

北海道衛生會規則ハ之ヲ廢止ス

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○ 朕警視廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
内務大臣男爵内海忠勝

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
内務大臣男爵内海忠勝

明治三十六年三月十九日

内閣總理大臣伯耆桂 太郎
内務大臣 内海忠勝

勅令第三十二號 (官報 三月二十日)

警視廳官制中左ノ通改正ス

第一條中「典獄」監獄書記「看守長」ヲ削ル

第三條中「典獄」ハ三人ヲ削ル

第四條中「監獄書記」看守長ヲ削リ「二百九十九人」ヲ「二百五十六人」ニ改ム

第六條中「警察ノ下」及「ヲ加ヘ」及「監獄」ヲ削ル

第十六條中「第四部」ヲ削ル

第二十條中「監獄」ヲ削ル

第二十一條中「二」削除

第二十二條中「第四部長」ハ「典獄」及「第五項」ヲ削ル

第二十三條中「第四部長」ハ「監獄事務」ニ付「監獄署長以下」ヲ削ル

第二十七條 削除

第二十八條 削除

第二十九條 削除

第三十條 削除

第三十四條 削除

第三十五條中「及看守」ヲ削ル

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第五十九號警視廳官制(明治二十六年十月三十一日官報)抄録

第一條 警視廳ニ左ノ職員ヲ置ク

第三條 警視ハ二十七人ヲ置キ長ハ一人典獄ハ三人ヲ任ストス

第四條 警視廳長ハ警視廳長官ニ任ズルモ其ノ職務及防備關士ハ判任トス

警視廳長官ハ警視廳長官ニ任ズルモ其ノ職務及防備關士ハ判任トス

第六條 警視廳長官ハ主務大臣ノ指授監督ヲ承ケ東京府下ノ警察消防及監獄ノ事務ヲ管理ス

第十六條 警視廳ニ左ノ部ヲ置ク

第二十條 第三部ニニ課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第二十一條 警視廳ニ關スル職務及分析等ニ關スル事項

第二十二條 第四部ニ於テハ監獄ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十三條 第二部長ハ警視第三部長ハ警視第四部長ハ典獄ヲ以テ之ニ補ス

同條第五項

第四部員ハ監獄書記看守長ヲ以テ之ニ充テ監獄署員ノ内ニシテ之ヲ兼ネシム

第二十七條 東京府下ニ三課ヲ置キ長官ハ警視廳長官ニ任ズルモ其ノ職務及防備關士ハ判任トス

第二十八條 警視廳長官ハ典獄ヲ以テ之ニ補ス但シ監獄署長ノ内一人ハ第四部長ヲ以テ之ヲ兼ネシム

第二十九條 監獄署長ハ典獄ヲ以テ之ニ補ス但シ監獄署長ノ内一人ハ第四部長ヲ以テ之ヲ兼ネシム

同條第五項

監獄支署長ハ監獄書記ヲ以テ之ニ充テ
 第三十條 監獄支署長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ監獄ニ關スル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
 監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ニ關スル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
 監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ニ關スル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
 看守長ハ前項職務ノ外看守ヲ指揮監督ス
 第三十四條 警視總監ハ外監獄醫ヲ任官ノ待遇トス
 第三十五條 巡査及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

朕北海道廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

内閣總理大臣 伯爵 桂 太郎
内務大臣 伯爵 海忠勝

勅令第三十三號 (官報 三月二十日)

北海道廳官制中左ノ通改正ス

- 第一條中「典獄」監獄書記「看守長及監獄醫」ヲ削ル
- 第六條中視學官一人ノ下ニ「及」ヲ加ヘ「及典獄一人」ヲ削ル
- 第八條中「監獄書記」看守長「及監獄醫」ヲ削リ「四百五十九人」ヲ「四百二十八人」ニ改ム
- 第十九條中「及一署」及「監獄醫」ヲ削ル
- 第二十條第十二號中「署」ヲ削ル
- 第二十六條 削除

- 第三十六條 削除
- 第三十七條第一項中「各部署」ヲ「各部」ニ「部署長」ヲ「上官」ニ改メ第二項中「部」ノ下ニ「又」ヲ加ヘ「監獄書記」又ハ「看守長」ヲ削ル
- 第四十二條 削除
- 第四十三條 削除
- 第四十四條 削除
- 第四十八條 削除
- 第四十九條中「看守」ヲ削ル

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第三百九十二號北海道廳官制 明治三十年十一月二日官報抄録
 第一條 北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク
 第六條 委員官二人視學官一人警視九人及典獄一人兼任トス
 第八條 屬視學官警部副視學官監獄書記看守長監獄醫ハ判任トス屬警部監獄書記看守長監獄醫ヲ通シテ四百五十九人ヲ以テ定ム
 第十九條 道廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲メ左ノ四部及一署ヲ置ク
 內務部 殖民部 土木部 警察部 監獄署
 第二十條 內務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 十二 廳中他部署ノ主宰ニ關セサル事項
 第二十六條 監獄醫ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 道廳監獄ニ關スル事項

第三十六條 典獄ハ監獄署長ト爲リ長官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第三十七條 長官官房及各部事務中便宜課ヲ設ケルトキハ各課ニ課長一人ヲ任シ課長ノ指揮ヲ承ケ課務ヲ掌理セシム
 第三十八條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第三十九條 監獄署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第四十條 監獄署長ハ上官ノ命ヲ承ケ其ノ職務ヲ代理ス
 第四十一條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第四十二條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第四十三條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第四十四條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第四十五條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第四十六條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第四十七條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第四十八條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第四十九條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

朕地方官官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

内閣總理大臣 伯爵 桂 太郎
内務大臣 伯爵 内海 忠勝

勅令第三十四號(官報三月二十日)
地方官官制中左ノ道改正ス

第一條 典獄ハ監獄署長ト爲リ長官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第二條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第三條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第四條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第五條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第六條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第七條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第八條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第九條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第十條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第十一條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第十二條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第十三條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第十四條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第十五條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第十六條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第十七條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第十八條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第十九條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
 第二十條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第二十條 削除

第二十一條 典獄ハ監獄署長ト爲リ長官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第二十二條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第二十三條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第二十四條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第二十五條 監獄署長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及監獄中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

内務部各課長ハ總務官又ハ視學官ヲ以テ之ニ充ツル場合ヲ除クノ外技師、屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ但シ内務大臣及農商務大臣ノ指定シタル府縣ニ於テハ本令第十七條ニ規定スル第四課ノ事務ヲ掌ル課長ハ高等官ヲ以テ之ニ充ツ

第二十九條 削除

第三十條 削除

第三十三條 及看守ヲ削ル

第三十六條 削除

第三十七條 府縣職員ノ外警察醫ヲ置クコトヲ得判任官ノ待遇トス

第三十八條 及監獄ヲ削ル

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第六十二號地方官官制(明治二十六年十月三十一日官報抄録)
第一條 各府縣ニ左ノ職員ヲ置ク

第三條 刑部官、警部官、刑部官及典獄ハ各一人委任トス
 但シ内務大臣ノ指定スル府縣ニ於テハ參事官二人ヲ置クコトヲ得
 第四條 刑部、監獄、刑部及看守長ハ判任トシ各府縣ヲ通シテ左ノ人員ヲ以テ定員トス
 刑部 監獄書記 看守長 五千七百四十人
 第五條 刑部、監獄書記及看守長ノ府縣ノ定員ハ主務大臣之ヲ定メ其ノ各官ノ定員ハ主務大臣ノ認可ヲ經テ知事之ヲ定ム
 第六條 各府縣ニ左ノ部署ヲ置ク
 内務部 警務部 監獄部
 第七條 監獄部ニ於テハ監獄ニ關スル事務ヲ掌ル
 第八條 刑部官ハ内務部長、警部長ハ警務部長、典獄ハ監獄署長トナリ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス
 第九條 内務部長事故アルトキハ知事ニ於テ府縣警務官ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシメ警務部長又ハ監獄署長事故アルトキハ知事ニ於テ府縣官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム
 第十條 警務部及監獄部ニ分課ヲ設クルコトヲ要スルトキハ知事之ヲ定メ主務大臣ニ報告スヘシ
 第十一條 第一項
 第十二條 内務部各課長ハ參事官又ハ視察官ヲ以テ課長ト爲ス場合ヲ除ク外屬ヲ以テ之ニ充ツ但シ技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
 第十三條 監獄書記ハ監獄署又ハ監獄支署ニ關シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
 第十四條 看守長ハ監獄署又ハ監獄支署ニ關シ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒嚴ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス
 第十五條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル
 第十六條 知事ハ司法大臣ノ認可ヲ經テ要ノ地ニ監獄支署ヲ置クコトヲ得
 第十七條 監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ支署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
 第十八條 府縣職員ノ外監獄署ヲ設ク判任官ノ待遇トス特ニ警務部ヲ設クトキ亦同シ
 第十九條 東京府ノ警務及監獄ニ關スル事項ハ警務廳官制ニ依ル

朕監獄官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

内閣總理大臣 伯爵 桂 太郎
司法大臣 男爵 清浦 奎吾

勅令第三十五號 (官報 三月二十日)

監獄官制

第一條 監獄ハ司法大臣ノ管理ニ屬ス
 第二條 司法大臣ハ須要ニ應ジ分監ヲ設クコトヲ得
 第三條 各監獄ヲ通シテ左ノ職制ヲ置ク
 典獄 五十七人 奏任
 看守長 專任七百七十二人 判任
 技手 專任二十三人
 通譯 專任十五人 判任
 第四條 典獄ハ監獄ノ長トナリ司法大臣ノ指揮監督ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌理シ所部ノ職員ヲ指揮監督ス
 第五條 典獄事故アルトキハ上官ノ席看守長共ノ職務ヲ代理ス
 第六條 分監ノ長ハ看守長ヲ以テ之ニ充ツ
 第七條 看守長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護及庶務ニ從事シ看守及女監取締ヲ指揮監督ス
 第八條 分監ノ長タル看守長ハ典獄ノ指揮監督ヲ承ケ分監ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

明治三十六年三月 勅令 第三十五號 監獄官制

第八條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第九條 通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯通譯ニ從事ス

第十條 監獄ニハ第三條ニ掲ケタル職員ノ外監獄醫、教誨師、教師、藥劑師、看守及女監取締ヲ置ク

其ノ定員職務及懲戒ニ關スル規程ハ司法大臣之ヲ定ム

監獄醫及教誨師ハ委任待遇若ハ判任待遇トシ、教師、藥劑師、看守及女監取締ハ判任待遇トス

第十一條 事務ノ分限並處務ノ規程ハ司法大臣之ヲ定ム

第十二條 監獄ノ名稱及位置ハ別表ニ依ル

各監獄ノ種類ハ司法大臣之ヲ指定ス

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

舊治監假留監官制及明治二十九年勅令第三百六十二號ハ之ヲ廢止ス

(別表)

名	稱	位	置
小	監 獄		東京府南葛飾郡南綾瀬村
東	京 監 獄		東京府東京市
市	谷 監 獄		東京府東京市
東	京 監 獄		東京府北豐島郡葛西町
大	阪 監 獄		大阪府大阪市
大	阪 監 獄		大阪府大阪市
長	崎 監 獄		長崎縣長崎市
函	館 監 獄		北海道函館市
名	古 屋 監 獄		愛知縣愛知郡千代村
宮	城 監 獄		宮城縣仙臺市
仙	臺 監 獄		宮城縣仙臺市
廣	島 監 獄		廣島縣廣島市
横	濱 監 獄		神奈川縣横濱市
新	潟 監 獄		新潟縣新潟市
新	潟 監 獄		新潟縣北足立郡浦和町
中	野 監 獄		千葉県千葉市千葉町
中	野 監 獄		栃木縣宇都宮市
青	森 監 獄		青森縣青森市
水	戸 監 獄		茨城縣水戸市
山	梨 監 獄		山梨縣甲府市
靜	岡 監 獄		靜岡縣静岡市
長	崎 監 獄		長崎縣長崎市

大	阪 監 獄	大阪府大阪市
大	阪 監 獄	大阪府大阪市
長	崎 監 獄	長崎縣長崎市
函	館 監 獄	北海道函館市
名	古 屋 監 獄	愛知縣愛知郡千代村
宮	城 監 獄	宮城縣仙臺市
仙	臺 監 獄	宮城縣仙臺市
廣	島 監 獄	廣島縣廣島市
横	濱 監 獄	神奈川縣横濱市
新	潟 監 獄	新潟縣新潟市
新	潟 監 獄	新潟縣北足立郡浦和町
中	野 監 獄	千葉県千葉市千葉町
中	野 監 獄	栃木縣宇都宮市
青	森 監 獄	青森縣青森市
水	戸 監 獄	茨城縣水戸市
山	梨 監 獄	山梨縣甲府市
靜	岡 監 獄	靜岡縣静岡市
長	崎 監 獄	長崎縣長崎市

京都府	京都府京都市
奈良	奈良縣奈良市
神戶	兵庫縣神戶市
和歌山	和歌山縣和歌山市
膳所	滋賀縣滋賀郡膳所町
德島	德島縣德島市
岡山	岡山縣岡山市
福井	福井縣福井市
金澤	石川縣金澤市
富山	富山縣上新川郡堀川村
高知	高知縣高知市
高松	香川縣香川郡東坂村
鳥取	鳥取縣鳥取郡海濱村
三池	福岡縣三池郡大字田町
佐賀	佐賀縣佐賀市
福岡	福岡縣福岡市
熊本	熊本縣熊本市
大分	大分縣大分郡大分町

鹿兒島	鹿兒島縣鹿兒島市
宮崎	宮崎縣宮崎郡宮崎町
沖繩	沖繩縣島尻郡小磯町切
青森	青森縣東津輕郡荒川村
札幌	北海道札幌市
札幌	北海道札幌市
十勝	北海道十勝郡下川町
釧路	北海道釧路市
安達	三秋縣津市
福島	福島縣信夫郡清水村
山形	山形縣山形市
盛岡	盛岡縣盛岡市
秋田	秋田縣南秋田郡川尻村
山口	山口縣山口市
松江	松江縣松江市
島根	島根縣松江市

〔參照〕

明治二十九年十一月廿四日勅令第三百六十二號ハ其治監假留監並監府縣看守定員ナリ

朕明治二十六年勅令第百八十二號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

内閣總理大臣 伯耆 桂 太郎
司法大臣 男爵 清浦 奎吾

勅令第三十六號(官報 三月二十日)

明治二十六年勅令第百八十二號中左ノ通改正ス

「集治監」ヲ「監獄」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治二十六年十月三十日勅令第百八十二號ハ警視廳北海道廳府縣及集治監判任官ニハ最低額以下六圓マテノ月俸ヲ給スル件ナリ

朕監獄則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

内閣總理大臣 伯耆 桂 太郎
司法大臣 男爵 清浦 奎吾

勅令第三十七號(官報 三月二十日)

監獄則中左ノ通改正ス

第二條 削除

第三條 削除

第四條第二項ヲ削ル

第五條 削除

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第九十三號監獄則(明治二十二年七月十三日官報)抄録

第二條 監獄ハ司法大臣ノ監督ニ屬ス

第三條 集治監及假留監ハ司法大臣之ヲ管理シ其他ノ監獄ハ警視廳長北海道廳長官府縣知事ヲ依テ之ヲ管理ス

第四條第二項

警視廳長及北海道廳長官府縣知事ハ毎年少クトモ一回所轄ノ監獄ヲ巡回スルニシテ

第五條 府縣會議員ハ臨時其府縣所轄ノ監獄ヲ巡回スルコトヲ得

朕明治二十九年勅令第百八十五號廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

文部大臣理學博士男爵菊池大麓

勅令第三十八號(官報三月二十日)

明治二十九年勅令第百八十五號ハ之ヲ廢止ス

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治二十九年五月八勅令第百八十五號ハ文部省ニ學校衛生顧問九人以内及學校衛生顧問會議幹事一人ヲ置クノ件ナリ

農事試驗場官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
農商務大臣男爵平田東助

勅令第三十九號(官報三月二十日)

農事試驗場官制中左ノ通改正ス

第四條中「四十八人」ヲ「三十二人」ニ改ム

第五條中「二十六人」ヲ「四十人」ニ改ム

第六條中「十二人」ヲ「八人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年勅令第四十五號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十六年四月八勅令第十八號農事試驗場官制第四條中「四十八人」ハ專任技師第五條中「二十六人」ハ專任技手第六條中「十二人」ハ專任書記ノ定員同三十四年四月十勅令第四十五號ハ肥料ノ分析鑑定ヲ爲サシムルタメ農事試驗場ニ專任技手二十人ヲ置クノ件ナリ

農事試驗場官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
逓信大臣子爵芳川顯正

勅令第四十號(官報三月二十日)

逓信官制

第一條 逓信官署ハ逓信大臣ノ管理ニ屬シ郵便郵便貯金、電信及電話ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 逓信官署ハ逓信管理、郵便局、電信局、電話局及鐵道郵便局トス

郵便局ハ郵便、郵便爲替及郵便貯金事務ノ外電信及電話事務ヲ、電信局ハ電信事務ノ外電話事務ヲ兼掌スルコトヲ得

郵便局、電信局及電話局ニハ支局ヲ設クルコトヲ得

第三條 郵便局ヲ分テ一等二等三等トス

明治三十六年三月 勅令 第四十號 逓信官制

第四條 通信管理局ハ其ノ管轄區域内ノ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ノ事務ヲ管理シ、並局舎營業事務ノ一部及電信電話ノ建築事務ヲ掌ル

第五條 一等郵便局ハ其ノ管轄區域内ノ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ノ管理事務並局舎營業事務ノ一部及電信電話ノ建築事務ヲ兼掌ス

第六條 遞信大臣ハ二等郵便局ヲシテ其ノ指定シタル區域内ニ於テ管理事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第七條 通信管理局及一等郵便局ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

第八條 遞信郵便ニ關スル管轄區域ハ遞信大臣之ヲ定ム

第九條 電信局、電話局、二等郵便局、鐵道郵便局及三等郵便局ノ名稱及位置ハ遞信大臣之ヲ定ム

第十條 遞信大臣ハ必要ナル在外各地ニ郵便局ヲ設クルコトヲ得

第十一條 遞信大臣ハ在外郵便局ヲ指定シ區域ヲ定メテ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ノ事務ヲ管理セシムルコトヲ得

第十二條 遞信大臣ハ必要ナル地ニ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ノ取扱所ヲ設クルコトヲ得

第十三條 通信管理局ニ左ノ職員ヲ附ク

通信管理局長

一等郵便局長

通信事務官

通信事務官補

通信技師

在外郵便局長

電信局長

電話局長

二等郵便局長

鐵道郵便局長

郵便支局長

電信支局長

電話支局長

通信書記

通信技手

通信書記補

三等郵便局長

第十三條 通信管理局長ハ勅任又ハ奏任トス、遞信大臣ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第十四條 一等郵便局長ハ奏任トス、遞信大臣ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第十五條 通信事務官及通信事務官補ハ奏任トス、上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十六條 通信技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第十七條 在外郵便局長、電信局長、二等郵便局長、鐵道郵便局長、郵便支局長及電信支局長ハ通信事務官、通信事務官補又ハ通信書記ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

電話局長及電話支局長ハ逓信技師又ハ逓信技手ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス
 第十八條 逓信書記及逓信書記補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス
 第十九條 逓信技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ従事ス
 第二十條 三等郵便局長ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

郵便及電信局官制、在外郵便電信局郵便局官制及電話交換局官制ハ之ヲ廢止ス

(別表)

逓信管理局及一等郵便局名稱位置管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
東京逓信管理局	武藏國東京	東京府 埼玉縣 千葉縣 山梨縣
大阪逓信管理局	攝津國大阪	大阪府 奈良縣 和歌山縣
京都郵便局	山城國京都	京都府 滋賀縣
橫濱郵便局	武藏國橫濱	神奈川縣 靜岡縣
神戸郵便局	播磨國神戸	兵庫縣 岡山縣 鳥取縣
長崎郵便局	肥前國長崎	長崎縣 佐賀縣
札幌郵便局	石狩國札幌	北海道
新潟郵便局	越後國新潟	新潟縣

名稱	位置	管轄區域
名古屋郵便局	尾張國名古屋	愛知縣 岐阜縣 三重縣
熊本郵便局	肥後國熊本	熊本縣 福岡縣 大分縣
仙臺郵便局	陸前國仙臺	宮城縣 福島縣 山形縣
廣島郵便局	安藝國廣島	廣島縣 島根縣 山口縣
宇都宮郵便局	下野國宇都宮	栃木縣 群馬縣 茨城縣
長野郵便局	信濃國長野	長野縣
青森郵便局	陸奥國青森	青森縣 岩手縣 秋田縣
金澤郵便局	加賀國金澤	石川縣 富山縣 福井縣
高松郵便局	讚岐國高松	香川縣 愛媛縣 高知縣 德島縣
鹿児島郵便局	薩摩國鹿児島	鹿児島縣 宮崎縣 沖繩縣

朕町村ハ請願ニ依ル電信施設ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

内閣總理大臣 伯爵桂 太郎
 逓信大臣 子爵芳川 顯正

勅令第四十一號(官報三月二十日)

第一條 逓信大臣ハ町村ノ請願ニ依リ電信局所ヲ新設シ其ノ他電信事務取扱ノ便ヲ開クコトヲ得
 第二條 前條ニ依ル施設ノ爲要ナル創設費ノ全部及維持費ノ一部ハ町村ノ負擔トス維持費ノ負擔

區分ハ遞信大臣之ヲ定ム

割賦費ハ町村ニ於テ直接ニ之ヲ支辨シ維持費ハ之ヲ國庫ニ納付スヘシ
第三條 遞信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ又ハ天災事變ニ際シ維持費ニ關スル町村ノ負擔ヲ減免スル
コトヲ得

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕郵便爲替貯金管理所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
遞信大臣子爵芳川顯正

勅令第四十二號(官報三月二十日)

郵便爲替貯金管理所官制中左ノ通改正ス

第三條 郵便爲替貯金管理所長ハ委任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中ノ事務ヲ掌理ス

第四條中第三條ニ依リ所長タル者ノ外ヲ削ル

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百七十一號郵便爲替貯金管理所官制(明治三十年八月十八日官報)抄録
第三條 郵便爲替貯金管理所長ハ通信事務官ヲ以テ之ニ充ツ遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中ノ事務ヲ掌理ス
第四條 通信事務官ハ通信事務官補ハ委任トス第三條ニ依リ所長タル者ノ外所長ノ事務ヲ助ケ又ハ郵便爲替貯金管理支所長
トナリテ其ノ事務ヲ掌理ス

朕通信官署及郵便爲替貯金管理所職員定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
遞信大臣子爵芳川顯正

勅令第四十三號(官報三月二十日)

第一條 通信官署及郵便爲替貯金管理所職員ノ定員ハ左ノ通トス但シ三等郵便局長ハ定員外トス

通信管理局長	二人
郵便爲替貯金管理所長	一人
一等郵便局長	十六人
通信事務官	十八人
通信事務官補	三十五人
通信技師	四十人
通信書記	三千三百八十七人
通信技手	四百五十三人

通信書記補 專任 三千六百十九人

第二條 各局所ノ定員ハ通信大臣之ヲ定ム

第三條 通信事務官、通信技師、通信書記及通信技手ハ臨時命ヲ承ケ逓信省通信局ノ事務ヲ助ク

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕郵便局經費渡切規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

勅令第四十四號 (官報 三月二十日)

郵便局經費渡切規則

第一條 通信大臣ハ其ノ特ニ指定シタル郵便局ニ限り經費ノ一部ヲ渡切ヲ以テ當該局長ニ交付ス
ルコトヲ得其ノ歳出科目ノ區分ハ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第二條 渡切經費金ハ年額ヲ十二分シテ毎月之ヲ交付ス但シ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ數月分ヲ交付スルコトヲ得

附則

本令ハ明治三十六年度分ヨリ之ヲ施行ス

逓信大臣子爵芳川顯正
大藏大臣男爵曾根克助

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

勅令第四十五號 (官報 三月二十日)

高等官等俸給令中左ノ通改正ス

第九條中各省ノ部「航路標識管理所長」ノ次ニ「通信管理局長」ヲ、鐵道作業局部長ノ次ニ「郵便爲替貯金管理所長」及「一等郵便局長」ヲ加ヘ在外各地郵便電信局長及在外各地郵便局長ヲ削ル

同條第三項中「商船學校長」ノ下ニ「通信管理局長」ヲ加フ

文武高等官等表申司法省ノ部監獄事務官ノ次五等乃至八等ノ欄ニ「典獄」ヲ加ヘ五等乃至七等ノ欄「集治監典獄」及六等乃至八等ノ欄「集治監分監長」ヲ削リ逓信省ノ部「商船學校長」ノ次ニ「一等乃至五等郵便局長」ヲ加ヘ警視廳ノ部五等乃至八等ノ欄「典獄」北海道廳ノ部六等乃至八等ノ欄「北海道廳典獄」及府縣ノ部六等乃至八等ノ欄「府縣典獄」ヲ削ル
高等文官等相階俸給表中「鐵道作業局部長」ノ次ニ「郵便爲替貯金管理所長」及「一等郵便局長」ヲ加ヘ在外各地郵便電信局長及在外各地郵便局長ヲ削ル

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

内閣總理大臣伯爵桂 太郎

朕典獄俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
司法大臣男爵清浦奎吾

勅令第四十六號(官報 三月二十日)

典獄俸給令

第一條 典獄ノ年俸左表ノ如シ

一級 千六百圓	二級 千四百圓	三級 千二百圓	四級 千圓
五級 九百圓	六級 八百圓	七級 七百圓	八級 六百圓

第二條 司法大臣カ八箇所以内ニ於テ特ニ指定シタル監獄ノ典獄ハ別ニ二百圓ノ加俸ヲ受ク

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎

朕文武判任官等級表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

勅令第四十七號(官報 三月二十日)

文武判任官等級表中左ノ通改正ス

文武判任官等級表中「集治監監獄書記」〔集治監 監獄書記〕ノ各項ヲ削リ「看守所次」左ノ一項ヲ加フ

監獄通譯	監獄通譯	監獄通譯	監獄通譯	監獄通譯
------	------	------	------	------

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

遞信大臣子爵芳川顯正

勅令第四十八號(官報 三月二十日)

遞信官署及郵便爲替貯金管理所ニ於テ現業ニ従事スル者ニハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依リ勸勉手當ヲ給スルコトヲ得

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ典獄及看守所長特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十六年三月 勅令 第四十八號 第四十九號 典獄及看守所長特別任用令

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
司法大臣男爵清浦奎吾

勅令第四百十九號(官報 三月二十日)

典獄及看守長特別任用令

第一條 典獄ハ五年以上監獄ニ關スル事務ニ從事シ判任官ニ擬係以上ノ現職ニ在ル者ニ限り當分ノ内文官高等試験委員ノ銜ヲ經テ任用スルコトヲ得

第二條 看守長ハ三年以上看守ノ職務ニ從事シ精勤證書ヲ有シ現ニ其ノ職ニ在ル者ニ限り實務ノ成績ヲ考查シ及學術ヲ試験シ文官普通試験委員ノ銜ヲ經テ任用スルコトヲ得

前項ノ考查及試験ハ典獄之ヲ行フ其ノ方法及科目ハ司法大臣之ヲ定ム

附則

第三條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 府縣參事官及典獄特別任用令、明治二十四年勅令第三百二十三號、明治二十八年勅令第一百一號、同年勅令第三百二號及集治監典獄府縣典獄集治監分監長特別任用令ニ依リ任用シタル集治監典獄、府縣典獄又ハ集治監分監長ハ監獄官制施行ノ際ニ限り典獄ニ任用スルコトヲ得

第五條 明治二十三年勅令第四百四十六號、明治二十六年勅令第九十六號、警部監獄書記看守長特別任用令又ハ文官任用令第六條ニ依リ任用シタル集治監書記、監獄書記又ハ看守長ハ監獄官制施行ノ際ニ限り前官月俸以内ノ看守長ニ任用スルコトヲ得

第六條 集治監又ハ府縣ノ雇ニシテ監獄官制施行ノ際監獄ノ雇ニ採用セララル者ハ文官任用令第六條ノ勅令者トス

朕權密顧問ノ諮詢ヲ經テ在外各地郵便局長タル通信事務官任用方ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月十九日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
逕信大臣子爵芳川顯正

勅令第五十號(官報 三月二十日)

在外各地郵便局長タル通信事務官ハ領事官ヲシテ之ヲ兼ネシムルコトヲ得

前項ニ依リ兼任セシムタル通信事務官ノ官等ハ其ノ本官ノ官等ニ依ル

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年勅令第八十號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十二年四月二十日勅令第八十號ハ領事官ノ在外各地郵便及電信局長兼任ニ關スル件ナリ

朕海軍望樓條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月二十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第五十一號 (官報 三月二十一日)

海軍望樓條例中左ノ通改ム

第三條中「掌理セシム」ノ下ニ左ノ如ク加フ
但シ對馬ニ在ル望樓ハ竹敷要港部參謀長ニ、臺灣及澎湖島ニ在ル望樓ハ馬公要港部參謀長ニ隸ス

第四條 削除

〔參照〕

勅令第二百五號海軍望樓條例(明治三十三年五月十九日)抄錄
第三條 望樓ニ望樓長ヲ置キ其ノ所在海軍區ヲ管スル警守府ノ望樓監督官ニ隸シ其ノ望樓ノ事務ヲ掌理セシム
第四條 望樓部附近ノ望樓ニ於テ望樓長ハ又其ノ要港部參謀ノ區ニ屬ス

朕在外公館職員官等令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月二十三日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
外務大臣男爵小村壽太郎

勅令第五十二號 (官報 三月二十四日)
在外公館職員官等令中左ノ通改正ス

第一條 中同五等ノ欄「公使館」ニ「二等書記官」ノ次ニ「公使館」ニ「三等書記官」同六等ノ欄「公使館」ニ「一等通譯官」ノ次ニ「外交官」ヲ加ヘ同七等ノ欄「公使館」ニ「二等書記官」ヲ削ル

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

明治三十六年三月二十三日

外務大臣男爵小村壽太郎

勅令第五十三號 (官報 三月二十四日)

公使館領事館費用條例中左ノ通改正ス

第二條 中同五等ノ欄「公使館」ニ「二等書記官」ノ次ニ「公使館」ニ「三等書記官」同六等ノ欄「貿易事務官」ノ次ニ「外交官」ヲ加ヘ同七等ノ欄「公使館」ニ「二等書記官」ヲ削ル

第五條 第一項但書中「其ノ本館領事」ニ對スル在勤俸ノ額「以下」ヲ加フ

第七條 第一項但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ在外公館長ニ於テ當該公館ヲ離ルルコトニ週間ニ違スルトキハ其ノ翌日ヨリ歸館ノ當日マテ代理ニ對スル在勤俸ヲ控除シタル殘額ヲ給ス

第十一條 左ノ一項ヲ加フ

第六條ノ増給ヲ受クル者ノ妻任所ニ於テ死亡シタルトキハ其ノ當月マテ増給ス

第十二條第一項但書中依リノ下ニ歸朝中轉官轉勤シタルトキハ新任地ノ在勤俸ニ依リテ加フ
第十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

在外公館長兼任國若ハ兼任地駐在ノ場合ニ於テ當該公館ヲ離ルルコトニ遇間ニ違ハルトキハ代理者ニ共ノ翌日ヨリ歸館ノ當日マテ代理ニ對スル在勤俸ヲ給ス

第二十三條第一項中其ノ實費ヲ「船車料ノ實費」ニ改ム

第二十九條中「館長」ヲ「出納官吏」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○ 朕明治三十年勅令第二百九號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月二十四日

内閣總理大臣 伯耆 桂 太郎
文部大臣 理學博士 菊池 大麓

勅令第五十四號 (官報 三月二十五日)

明治三十年勅令第二百九號中左ノ通改正ス

第二條 京都帝國大學ノ分科大學ハ帝國大學令第九條ニ依ラス法科大學第一醫科大學第二醫科大學文科大學及理工科大學トシテ第二醫科大學ハ之ヲ福岡ニ置ク

第一醫科大學ヲ京都帝國大學京都醫科大學ト稱シ第二醫科大學ヲ京都帝國大學福岡醫科大學ト稱ス

〔參照〕

勅令第二百九號(明治三十年六月二十二日官報)抄録

第二條 京都帝國大學ノ分科大學ハ帝國大學令第九條ニ依ラス法科大學醫科大學文科大學及理工科大學トス

○ 朕京都帝國大學官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月二十四日

内閣總理大臣 伯耆 桂 太郎
文部大臣 理學博士 菊池 大麓

勅令第五十五號 (官報 三月二十五日)

京都帝國大學官制中左ノ通改正ス

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

總長ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ福岡醫科大學長ニ委任スルコトヲ得

第三條中「一人」ヲ「二人」ニ改ム

第五條中「二十七人」ヲ「三十三人」ニ改ム

第七條第一項中「五十九人」ヲ「六十三人」ニ改ム

第八條中「二十九人」ヲ「三十一人」ニ改ム

第九條中「五十人」ヲ「八十人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

勅令第二百一十一號京都帝國大學官制(明治三十年六月二十二日官報)抄録

第三條

附記官ハ專任一人兼任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第五條第二項

京都帝國大學分科大學書記ハ通計專任二十七人ヲ以テ定員トス

第七條 教授ハ專任五十九人兼任又ハ勲任トス各分科大學ニ置ケ所ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其研究ヲ指導ス

第八條 助教授ハ專任二十九人兼任トス教授ヲ助ケ授業及實驗ニ從事ス

第九條 助手ハ專任五十人兼任トス教授助教授ノ指揮ヲ承ケ學術技術ニ關スル職務ニ服ス

朕文部省直轄諸學校職員定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月二十四日

内閣總理大臣 伯爵 桂 太郎
文部大臣 伯爵 菊池 大麓

勅令第五十六號(官報 三月二十五日)

文部省直轄諸學校職員定員令中左ノ通改正ス

盛岡高等農林學校ノ部教授ノ欄「三人」ヲ「八人」ニ助教授ノ欄「三人」ヲ「六人」ニ神戸高等商業學校ノ部教授ノ欄「三人」ヲ「七人」ニ助教授ノ欄「二人」ヲ「四人」ニ書記ノ欄「三人」ヲ「五人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕教育基金令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月二十四日

内務大臣 伯爵 内海 忠勝
文部大臣 伯爵 菊池 大麓
大藏大臣 伯爵 曾 根 荒助

勅令第五十七號(官報 三月二十五日)

教育基金令中左ノ通改正ス

第二條中「前年三月一日」ヲ「前前年度末」ニ「北海道廳」ヲ「北海道」ニ改ム

第二條ノ二 文部大臣ハ公立小學校ノ校地校舍非常變災ニ因リ被害甚シキ場合ニ於テ必要ト認ム

ルトキハ前條ノ標準ニ依ラスレテ其ノ被害アリタル道府縣ニ對シ特別ノ配當ヲ爲スコトヲ得

前項ノ配當金額中前條ニ依リ配當スヘキ金額ニ超過シタル額ハ之ヲ受ケタル道府縣ノ翌年度以

後ニ於ケル配當金ヨリ之ヲ控除スヘシ其ノ控除シタル金額ハ前條ノ標準ニ依リ之ヲ他ノ道府縣

ニ配當ス

第三條第一項中「前條」ヲ「前二條」ニ改メ「沖繩縣」ヲ除クノ外「ヲ削リ第一項及第二項中「府縣」ノ上ニ

「北海道」及「ヲ加ヘ其ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

明治三十六年三月 勅令 第五十七號

前項ノ教育資金ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得
 同條第三項中「北海道廳及ヲ削リ」配當金ハ「ノ下ニ」前二項ニ依ラヌヲ加フ
 第五條中「市町村立」ヲ「公立」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ
 公立高等小學校ノ校地校舍ニシテ非常變災ニ罹リ設備ノ復舊ヲ要スル場合ニ在リテハ前項ノ規
 定ヲ準用スルコトヲ得
 第七條ニ左ノ但書ヲ加フ
 但シ非常變災ノ場合ニ於テハ設備復舊費ノ十分ノ五以内ヲ補助スルコトヲ得
 第八條中「府縣」ノ上ニ「北海道及」ヲ加ヘ「文部大臣ノ認可ヲ受ケ」ヲ削リ「市町村立」ヲ「公立」ニ改ム
 第九條中「府縣知事」ヲ「地方長官」ニ改ム
 第十條中「北海道廳及」ヲ削ル
 第十條ノ二 本令中公立小學校ニ關スル規定ハ師範學校附屬小學校ニ之ヲ適用セシ
 附則
 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第四百三十五號教育資金令(明治三十二年十一月二十二日官報)抄録
 第二條 文部大臣ハ教育資金特別會計法第四條ニ依リ一般ノ歳出トシテ毎年度預算ニ於テ定マリタル金額ヲ前年三月一日
 現在ノ學齡兒童數ニ應ジテ北海道廳及府縣ニ配當ス
 第三條 前條ノ配當金ハ沖繩縣ヲ除ク外府縣ニ下付スヘシ
 府縣ハ前項ノ下付金ヲ以テ其ノ教育資金ト爲シ特別會計ヲ設置スヘシ
 北海道廳及沖繩縣ノ配當金ハ文部大臣之ヲ管理ス

第五條 教育資金ハ第八條ノ場合ヲ除ク外市町村立尋常小學校ノ校地校舍ヲ設備スル費用ニ充ツル爲市町村制ヲ施行
 シタル地方ニ於テハ之ヲ市町村制組合町村制組合ニ貸付シ其ノ他ノ地方ニ於テハ之ヲ小學校設置區域ニ補助ス
 第七條 補助金額ハ第五條ノ設備ニ要スル費用ノ總額十分ノ三以内ニ於テ地方長官之ヲ定ム
 第八條 府縣ハ毎年即費ヲ受ケタル金額十分ノ三以内ヲ限リ文部大臣ノ認可ヲ受ケ市町村立小學校教員ノ獎勵其ノ他普通
 教育ニ關スル費用ニ充ツルコトヲ得
 第九條 府縣知事ハ教育資金使用ニ關スル規則ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
 第十條 北海道廳及沖繩縣ノ配當金ノ使用ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

朕憲兵條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月二十六日

海軍大臣 野山 木權兵衛
 內務大臣 野內 海忠勝
 司法大臣 野淵 清奎 丞
 陸軍大臣 寺內 正毅

勅令第五十八號(官報 三月二十七日)
 憲兵條例中左ノ通改正ス
 第六條第二項ヲ削リ第三項ヲ左ノ如ク改ム
 憲兵隊管區ハ別表ニ依ル但シ臺灣ニ於ケル憲兵隊管區ハ臺灣總督之ヲ定ム
 第七條 各憲兵隊本部ハ師團司令部所在地ニ之ヲ置ク
 各憲兵隊ハ之ヲ分隊ニ分ツ其ノ配置及管區ハ陸軍大臣之ヲ定ム

臺灣ニ於ケル憲兵隊本部ノ位置並分隊ノ配置及其ノ管區ハ臺灣總督之ヲ定ム

第八條 削除

第九條 削除

第十條 憲兵司令部ニ左ノ職員ヲ置ク

憲兵司令官

憲兵副官

憲兵下士

憲兵隊ニ左ノ職員ヲ置ク

憲兵隊長

憲兵隊副官

憲兵分隊長

憲兵隊附士官

憲兵准士官下士上等兵

憲兵司令部及憲兵隊ニハ經理部衛生部及獸醫部士官准士官下士判任文官並跡鐵工長ヲ附スル

コトヲ得

第十一條 削除

第十三條 削除

第十六條ノ二 憲兵副官ハ司令官 憲兵隊副官ハ隊長ノ命ヲ承ケ各部内ノ事務ニ服ス

第十八條中「中少尉ヲ士官ニ改ム

第十九條 削除
第二十一條中「中少尉ヲ士官ニ改ム
第二十二條 削除
別表ヲ左ノ如ク改ム

憲兵隊管區表

管區名	區	城
第一憲兵隊管區	第一師管	
第二憲兵隊管區	第二師管	
第三憲兵隊管區	第三師管	
第四憲兵隊管區	第四師管及第十一師管内德島縣板野郡	
第五憲兵隊管區	第五師管及第十一師管内愛媛縣西智郡	
第六憲兵隊管區	第六師管	
第七憲兵隊管區	第七師管	
第八憲兵隊管區	第八師管	
第九憲兵隊管區	第九師管	
第十憲兵隊管區	第十師管	
第十一憲兵隊管區	第十一師管(第四第五憲兵隊管區ニ屬スル郡ヲ除ク)	

第十二憲兵隊管區 第十二師團

備考 並稱ニ於ケル憲兵隊管區名ハ本表管區ノ順ヲ追ヒ番號ヲ附ス

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第三百三十七號憲兵條例(明治三十一年十一月三十日官報)抄錄

第六條 東京ニ憲兵司令部ヲ置キ各憲兵隊管區ニ一憲兵隊ヲ配置ス

憲兵隊ニハ其ノ管區ノ番號ヲ附ス

憲兵隊管區ノ區域ハ別表ニ依リ

第七條 憲兵隊本部ハ各師團司令部及各藩府守備混成旅團司令部所在地ニ之ヲ置ク

第八條 憲兵分隊或憲兵警備區ニハ憲兵分隊本部所在ノ地名ヲ冠ス

憲兵隊管區ノ區域及憲兵分隊ノ配置ハ陸軍大臣之ヲ定ム但シ藩府ニ在テハ藩府總督之ヲ定ム

第九條 憲兵分隊本部ハ其區域及番號ノ地ニ之ヲ置ク

第十條 憲兵ノ職責左ノ如ク

憲兵司令部

憲兵司令官 少將若ハ憲兵大佐

憲兵副官 憲兵少佐大、中尉

軍醫

書記 憲兵下士、中尉若ハ判任士官

本部

憲兵隊長 憲兵中、少佐、大尉

憲兵副官 憲兵中尉

憲兵隊副官 憲兵中、少尉

軍醫

書記 憲兵下士、中尉

本部

憲兵分隊長 憲兵大、中尉

書記 憲兵下士

本部

憲兵隊長 憲兵少佐、中尉、大尉、中尉

書記 憲兵下士、中尉

本部

憲兵隊長 憲兵中、少佐

書記 憲兵大、中尉

本部

憲兵隊長 憲兵中、少尉

書記 憲兵下士

本部

憲兵隊長 憲兵下士、中尉

書記 憲兵下士

本部

憲兵隊長 憲兵大、中尉

書記 憲兵下士

本部

憲兵隊長 憲兵大、中尉

書記 憲兵下士

本部

憲兵隊長 憲兵少佐、中尉、大尉、中尉

書記 憲兵下士、中尉

本部

憲兵隊長ハ第一師團第十二及第十三師團第十五師團兵隊ヲ編ビテ之ヲ限リ憲兵大佐ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十二條 憲兵准士官下士、上等兵四名乃至八名ヲ以テ一班トシ數班ヲ以テ一分隊トシ數分隊ヲ以テ一隊ト爲ス

○ 必要ニ依リ班ニ乘馬ヲ附ス
 第十二條 陸軍大臣及海軍大臣ハ必要ニ際シ一時憲兵隊ノ一部ヲ其ノ管區外ニ派遣スルコトヲ得
 第十三條 憲兵司令官ハ各憲兵隊管區内ニ於テ憲兵ノ常時巡察スヘキ地域ヲ定ムヘシ
 前項地域外ト雖臨時緊急ノ場合ニ在テハ憲兵隊長ハ其ノ管區内ニ憲兵分隊長ハ其ノ管區内ニ憲兵ヲ使用スルコトヲ得
 第十八條 憲兵隊附屬中少尉ハ隊長ノ命ヲ承ケ勤務ニ服ス
 第十九條 憲兵隊長ハ部下ノ下士上等兵ノ勤務ヲ指示監督スヘシ
 第二十一條 營分ノ内務兵隊長副官分隊長隊附屬中少尉ハ豫備役後備役ノ者ヲ以テ充ルコトヲ得其ノ身分取扱ハ召集
 中ノ者ニ同シ
 第二十二條 上等伍長タル者ニシテ本令施行ノ際班長ヲ命セラルル者ノ身分取扱及階級與ハ陸軍服役條例第五十四條第二
 二號ナル服役期限満ル迄若ハ既ニ許可ヲ得タル再服役期限満ル迄從前ノ規定ニ依ル

朕文部省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月二十六日

内閣總理大臣 伯爵 桂 太郎
文部大臣 士男 野 菊池 大 龍

勅令第五十九號 (官報 三月二十七日)

文部省官制中左ノ通改正ス

第五條ニ左ノ一號ヲ加フ

十二 醫術開業試驗及藥劑師試驗ニ關スル事項

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十一年十一月二日勅令第二百七十九號文部省官制第五條ハ專門學務局所掌事務ノ件ナリ

朕文部省外國留學生規程中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月二十六日

文部大臣 理學博士 男 野 菊池 大 龍

勅令第六十號 (官報 三月二十七日)

文部省外國留學生規程中左ノ通改正ス

第三條 文部省外國留學生ニハ別表ニ依リ往復旅費、支度料及學費ヲ支給ス但レ做箇國へ留學スル者ノ支度料ハ其ノ多キ額ニ依ル

別表掲記以外ノ國ニ留學スル者ニハ學費ハ年額千八百圓以内支度料ハ二百圓以内ニ於テ文部大臣之ヲ定メ其ノ往復旅費ハ外國旅費規則ニ依リ判任官ニ準シ之ヲ支給ス

第三條ノ二 文部省外國留學生木邦出發前死亡シタルトキハ支度料ノ半額ヲ支給シ其ノ出發後死亡シタルトキハ死亡地ヨリ木邦出發迄外國旅費規則第十三條ニ依リ判任官ニ準シ旅費ヲ支給ス

第三條ノ三 文部省外國留學生旅費定額支給ノ場合ニ於テ旅行中疾病、變災其ノ他避クヘカラサル事由ニ依リ同一地ニ滞在スルコト七日ヲ超過スルトキハ其ノ超過日數ニ對シ清韓ニ在リテハ日額金六圓其ノ他ノ外國ニ在リテハ日額金九圓五十錢ノ割合ヲ以テ別ニ旅費ヲ支給ス但レ船舶

御名 御璽

明治三十六年三月二十六日

文部大臣理學博士男爵菊池大麓

勅令第六十一號 (官報 三月二十七日)

專門學校令

- 第一條 高等ノ學術技藝ヲ教授スル學校ハ專門學校トス
- 專門學校ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ規定ニ依ルヘシ
- 第二條 北海道府縣又ハ市ハ土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ限り專門學校ヲ設置スルコトヲ得
- 但シ沖繩縣ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第三條 私人ハ專門學校ヲ設置スルコトヲ得
- 第四條 公立又ハ私立ノ專門學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 專門學校ノ入學資格ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者以上ノ程度ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ美術、音樂ニ關スル學術技藝ヲ教授スル專門學校ニ就テハ文部大臣ハ別ニ其ノ入學資格ヲ定ムルコトヲ得

前項檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 專門學校ノ修業年限ハ三箇年以上トス

第七條 專門學校ニ於テハ豫科、研究科及別科ヲ置クコトヲ得

第八條 官立專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並豫科、研究科及別科ニ關スル規程ハ文

部大臣之ヲ定ム

公立又ハ私立ノ專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並豫科、研究科及別科ニ關スル規程ハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第九條 公立又ハ私立ノ專門學校ノ教員ノ資格ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 公立專門學校ノ教員ノ旅費及給與ニ關スル規程ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定

第十一條 公立ノ專門學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニハ之ヲ減免シ又ハ徵收

セサルコトヲ得

第十二條 第一條ニ該當セサル學校ハ專門學校ト稱スルコトヲ得ス

附則

第十三條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 明治二十年勅令第四十八號ハ之ヲ廢止ス

第十五條 既設ノ公立又ハ私立ノ學校ニシテ本令ニ依ルヘキモノハ本令施行ノ日ヨリ一箇年以内

ニ第四條ニ準シ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ手續ヲ爲ササルモノハ前項ノ期間ノ滿了ト共ニ廢校シタルモノト看做ス

第一項ノ手續ヲ爲スモ不認可ノ命令ヲ受ケタルモノハ其ノ命令ヲ受ケタル日ニ於テ廢校シタルモノト看做ス

第十六條 千葉醫學專門學校、仙臺醫學專門學校、岡山醫學專門學校、金澤醫學專門學校、長崎醫學專門學校、東京外國語學校、東京美術學校及東京音樂學校ハ本令施行ノ日ヨリ專門學校トス

〔參照〕

明治二十年四月一日勅令第四十八號八府縣立實業學校ノ費用ハ地方稅ヲ以テ支拂スルコトヲ得サルノ件ナリ

朕權悉顧問ノ諮詢ヲ經テ實業學校令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年三月二十六日

文部大臣理學博士男露菊池大瀧

勅令第六十二號 (官報 三月二十七日)

實業學校令中左ノ通改正ス

第二條ノ二 實業學校ニシテ高等ノ教育ヲ爲スモノヲ實業專門學校トス

實業專門學校ニ關シテハ專門學校令ノ定ムル所ニ依ル

第三條第一項但書中「道廳ヲ道」ニ「實業學校ヲ學校」ニ改メ第二項中「府縣」ノ上ニ「北海道又ハ」ヲ加

フ

第四條 削除

第五條中「北海道及沖繩」ヲ「北海道沖繩縣ノ區、北海道一級町村二級町村、沖繩縣間切區」ニ改メ

第五條ノ二 商業會議所ハ實業學校ヲ設置スルコトヲ得

第七條第一項中「工業學校」及「實業補習學校」第二項中「實業學校」ノ上ニ「公立又ハ私立」ヲ第一項中

「地方長官」ノ上ニ「道府縣立」ニ係ルモノヲ除クノ外ヲ加フ

第八條中「學科」ヲ「修業年限、學科、學科目」ニ改ム

第十條中「實業學校教員」ノ上ニ「公立又ハ私立」ヲ加フ

第十一條中「俸給」ヲ削ル

第十三條中「實業學校」ノ上ニ「公立又ハ私立」ヲ加フ

第十七條 削除

附則

本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

札幌農學校、盛岡高等農林學校、東京高等商業學校、神戸高等商業學校、東京高等工業學校、大阪高等

工業學校及京都高等工藝學校ハ本令施行ノ日ヨリ實業專門學校トス

〔參照〕

勅令第二十九號實業學校令(明治三十二年二月七日官報)抄録

第三條 北海道及府縣ニ於テハ實業學校ヲ設置スルコトヲ得但シ道府縣立實業補習學校ハ他ノ道府縣立實業學校ニ附

設スル場合ニ限ル

文部大臣ハ土地ノ情況ニ應ジ必要ナル實業學校ノ設置ヲ府縣ニ命スルコトヲ得

第四條 前條ノ實業學校ノ經費ハ北海道及沖繩縣ヲ除ク外府縣ノ負擔トス

第五條 郡市町村及町村組合又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ必要ニシテ其ノ區域内小學教育ノ施設上妨ナキ場合

ニ限リ實業學校ヲ設置スルコトヲ得

第七條 工業學校應業學校前條學校附屬學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ實業補習學校ノ設置廢止ハ地方長官ノ認

可ヲ要ス

實業學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 實業學校ノ學科及進級ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 實業學校教員ノ資格ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條 公立實業學校職員ノ俸給旅費其ノ他俸給與ニ關スル規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第十三條 實業學校ノ規則及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 本令ハ官立學校ニ適用セス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ小學校令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治三十六年三月二十六日

文部大臣理學博士男爵菊池大蔵

勅令第六十三號(官報 三月二十七日)

小學校令中左ノ通改正ス

第二十條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

修業年限三箇年以上ノ高等小學校ニ於テハ男兒ノ爲ニ手工、農業、商業ノ一科目若ハ數科目ヲ加
フ但シ數科目ヲ加フル場合ニ於テハ兒童ニハ其ノ一科目ヲ學習セシム

同條第三項中「農業、商業、手工」ノ一科目若ハ數科目ヲ「女兒ノ爲ニ手工」ニ第五項中「前三項」ヲ「前四
項」ニ改ム

第二十三條第一項中「又ハ隨意科目ト爲サムトスルトキ」ヲ「若ハ隨意科目ト爲シ又ハ第二十條第三
項ノ教科目ヲ定メムトスルトキ」ニ改ム

第三十二條第一項中「翌月」ヲ「翌日」ニ第二項中「月以後」ヲ「日以後」ニ改ム

第七十條ノ二 第二十條第三項ノ教科目ハ當分ノ内之ヲ闕クコトヲ得

附則

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三十二條ニ關スル改正ハ明治三十六年四月一
日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第三百四十四號小學校令(明治三十三年八月二十日官報抄録)

第二十條第三項

修業年限三箇年以上ノ高等小學校ニ於テハ唱歌ヲ兩キ又ハ農業、商業、手工ノ一科目若ハ數科目ヲ加フルコトヲ得

第二十三條 小學校ノ教科目ヲ加除シ又ハ隨意科目ト爲サムトスルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ管理官、私立小學校ニ
在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三十二條 兒童滿六歳ニ達シタル翌月ヨリ滿十四歳ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

學齡兒童ノ學齡ニ達シタル月以後ニ於ケル最初ノ學年ノ始ヲ以テ就學ノ始期トシ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルトキ
以テ就學ノ終期トス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ徵兵事務條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月二十七日

海軍大臣男爵山本權兵衛
內務大臣男爵內海忠勝
陸軍大臣 寺內正毅

勅令第六十四號(官報 三月二十八日)

徵兵事務條例中左ノ通改正ス

第十六條第一項中「若ハ二名及」ノ下ニ「看護長一名」ヲ加フ

第二十一條第一項中「毎年戶籍簿ニ據リ」ノ下ニ「前年十二月一日ヨリ其ノ年十一月三十日迄」ヲ加
フ

第四十六條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

明治三十六年三月 勅令 第六十四號

臨時ニ多數ノ現役兵ノ闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ前諸項ノ期日ニ拘ラス第一補充兵ヲ以テ各
年次ニ於ケル現役兵ノ闕員ヲ補充スルコトヲ得
第六十二條第二項ヲ削ル

附則

第二十一條ノ改正ハ明治三十五年ニ於テ徵兵上ノ終決處分ヲ受ケタル者ニハ之ヲ適用セス

〔參照〕

勅令第百十二號徵兵事務條例(明治二十九年三月三十一日官報抄録)
第十六條 勸隊區徵兵事務員又ハ勸隊區徵兵事務員ハ勸隊區書記又ハ勸隊區書記一名若ハ二名及島根郡市書記
第七條 町村長ハ勸隊區書記ニシテハ毎年戶籍簿ニ據リ徵兵適齡者ヲ取調ヘ徵兵令第二十五條ノ屆書ニ照數シ
十名額ヲ作り二月十五日迄ニ島根又ハ郡長ニ提出シ島根郡長ハ徵兵令第二十五條ノ屆書ニ照數シ
勸隊區書記又ハ勸隊區書記ニ提出ス
第六十二條第二項
島根ヨリ徵兵ノ現役兵入營後闕員ヲ生シ第四十六條ニ依リ徵兵年ノ翌年一月三十一日迄三回徵兵區ノ第一補充兵又ハ海
軍補充兵ヲ以テ補充シ離島トキハ該勸隊區内他ノ徵兵區ヨリ之ヲ補充スルコトヲ得其ノ配賦ハ各徵兵區補充兵ノ總數ヲ
率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

朕明治二十四年勅令第百四十四號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月二十七日

内閣總理大臣 伯耆 桂 太郎
文部大臣 理學博士 男 菊池 大麓

勅令第六十五號(官報 三月二十八日)

明治二十四年勅令第百四十四號中在ノ通改正ス

第二條第一項中學校ノ地位種類等ニ依リテ專門學校及實業專門學校ノ學校長教諭及舍監ハ委任
文官ト同一ノ待遇ヲ受クルモノトシ其ノ他ノ學校ノニ改ム

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第百四十四號(明治二十四年十二月十四日官報抄録)
第二條 學校長教諭助教諭舍監書記ハ委任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但シ學校ノ地位種類等ニ依リ學校長及教諭三名以内ハ
特ニ委任文官ト同一ノ待遇ヲ受クシムルコトアルヘシ

朕公立學校職員俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月二十七日

文部大臣 理學博士 男 菊池 大麓

勅令第六十六號(官報 三月二十八日)

公立學校職員俸給令

第一條 本令ニ於テ職員ト稱スルハ公立ノ專門學校師範學校中學校高等女學校及實業學校ノ職
員ニシテ委任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ヲ謂フ

第二條 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル專門學校及實業專門學校ノ職員ノ年俸ハ第一號表ニ依ル
第三條 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル師範學校、中學校、高等女學校及實業學校ノ職員ノ職
員ノ年俸ハ第二號表ニ依ル

第四條 判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ月俸ハ第三號表ニ依ル

第五條 官吏ニシテ在官ノ儘職員ニ任セラレタル者ノ俸給ハ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

第六條 一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ特ニ功勞アル職員ニハ本俸三分ノ一以下ノ加俸ヲ給ス
ルコトヲ得

第七條 教員ニシテ舍監、主事ヲ兼ヌル者ニハ相當ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第八條 教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應ジ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

第九條 二校以上ノ職員ヲ兼ヌル者ニハ其ノ俸給ヲ分割シテ關係學校ノ經費中ヨリ之ヲ支給スル
コトヲ得

第十條 陸軍給與令又ハ海軍軍人俸給令ニ依リ俸給ヲ受クル職員ニハ其ノ間俸給ヲ支給セス但シ
其ノ俸給額職員ノ俸給額ヨリ寡ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得

第十一條 俸給ハ等級在職一年以上ニ至ラサレハ増給スルコトヲ得但シ奏任文官ト同一ノ待遇
ヲ受クル職員ニシテ年俸五百圓以下ノ者及判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ月俸三十
五圓以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ轉任スル場合ニ於
テ支給スル俸給ハ前職ノ俸給額ニ相當スル俸給以下トス若シ相當額ナキトキハ其ノ最モ近キ上
級ノ俸給以下トス但シ前職等級在職一年ヲ除キタル者ニ在リテハ一級ヲ進ムルコトヲ得

前項ノ規定ハ年俸六百圓以下又ハ月俸四十圓以下ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス

第十三條 退職後一年以内ニ再任セラレタル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ前職等級在職一年ヲ除キタル者ハ前職ノ等級ニ一級ヲ進ムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ年俸六百圓以下又ハ月俸四十圓以下ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス
退職後一年以内ニ名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ任セラレ
ル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十四條 前三條ノ俸給額ニハ加俸ヲ算入セス

第十五條 休職者ニハ俸給ヲ支給セス但シ特別ノ事情アルトキハ俸給ノ三分ノ一以下ヲ給スルコ
トヲ得

第十六條 特別ノ事情ニ依リ第十一條乃至第十三條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ地方長官ハ文
部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十七條 高等官官等俸給令第十三條乃至第十八條ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ニ關シ
判任官俸給令第五條及第六條ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ニ關シ之ヲ準用ス

第十八條 俸給支給ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定ム

附則

第十九條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級俸ヲ受ク
現ニ本令ニ規定スル俸給額ニ相當セサル俸給ヲ受クル者ハ當分ノ内現在ノ儘支給スルコトヲ得
但シ其ノ者ノ取扱ニ關シテハ其ノ俸給ニ最モ近キ上級ノ俸給ヲ受クルモノト看做ス

明治三十六年三月三十日

勅令第六十八號(官報 三月三十一日)

京都帝國大學法科大學醫科大學及理工科大學ニ於ケル講座ノ種類及其ノ數左ノ如シ

文部大臣理學博士男爵菊池大麓

京都醫科大學

憲法	一講座	解剖學	二講座
國法學	一講座	生理學	一講座
民法	三講座	醫化學	一講座
商法破産法	二講座	病理學、病理解剖學	二講座
民事訴訟法	一講座	藥物學	一講座
刑法、刑事訴訟法	一講座	內科學	二講座
經濟學	一講座	婦人科學、產科學	一講座
財政學	一講座	小兒科學	一講座
統計學	一講座	外科學	二講座
行政法	一講座	眼科學	一講座
國際公法	一講座	皮膚病學、微生物學	一講座
國際私法	一講座	精神病學	一講座
羅馬法	一講座	衛生學	一講座
英吉利法	一講座	法醫學	一講座
佛蘭西法	一講座	福岡醫科大學	
獨逸法	一講座	解剖學	一講座
法理學	一講座	內科學	一講座

外科學	一講座	機械工學	五講座
眼科學	一講座	電氣工學	三講座
理工科大學		探礦學	二講座
數學	二講座	冶金學	二講座
物理學	三講座	材料強弱學	一講座
化學	五講座	構造強弱學	一講座
土木工學	四講座		
附則			

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年勅令第二百十九號及明治三十二年勅令第三百二十一號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十年勅令第二百十九號ハ京都帝國大學理工科大學講座ノ件ナリ

明治三十二年勅令第三百二十一號ハ京都帝國大學法科大學及醫科大學講座ノ件ナリ

朕文部省直轄諸學校職員定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

內閣總理大臣伯爵桂 太郎
文部大臣 理學博士男爵菊池大麓

明治三十六年三月三十日

勅令第六十九號(官報三月三十一日)

文部省直轄諸學校職員定員令中左ノ通改正ス

廣島高等師範學校ノ部教授ノ欄「八人」ヲ「十七人」ニ助教ノ欄「二人」ヲ「三人」ニ改メ、助手ノ欄「二人」ヲ「加ヘ書記ノ欄「五人」ヲ「六人」ニ京都高等工藝學校ノ部書記ノ欄「五人」ヲ「六人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕陸軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月三十一日

陸軍大臣寺內正毅

勅令第七十號

陸軍給與令中左ノ通改正ス

第二十五條第三項中「定額補助料」ヲ「糧食」ニ改ム

第二十九條 削除

第三十條第一項ニ「但シ准士官ヨリ士官ニ任セラレタルトハ此ノ限ニ在ラス」ヲ加ヘ第三項ヲ削

リ第四項中「服裝、馬裝及轉科服裝手當」ヲ「服裝手當及馬裝手當」ニ改メ第五項ヲ削ル

第三十一條 營内居住ノ下士以下、憲兵、下士上等兵、軍樂手、樂手補及召集中ノ豫備役、後備役、下士以下、

下位補充兵ニハ第十三表中所要ノ被服ヲ支給又ハ貸與ス

第三十二條 軍隊、懲治隊、諸學校及病院ニハ第十四表中所要ノ被服ヲ備附シ

第三十三條 前二條ノ被服ノ種類、定數及保存期限ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三十四條 下士以下ノ被服ハ其ノ定員定員ナキモハ其ノ現人員現人員備附被服ハ其ノ定數ニ應シ地質ト金額ト

ニ分チ當該部隊ニ之ヲ交付ス

前項地質ノ定尺及金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三十五條 憲兵隊、軍樂隊、懲治隊、諸學校及病院ニ交付スル被服ニ付テハ隊長、校長及院長ニ其ノ

經理ヲ委任ス

第三十六條 營外居住ノ下士以下ニハ特ニ必要トスル被服ニ限リ支給又ハ貸與スルコトヲ得

第三十七條 軍人軍屬ニハ地方ノ狀況ニ依リ特種ノ被服ヲ支給又ハ貸與スルコトヲ得

附則中「本令第十三表品目中第二種帽、絨衣袴、夏衣袴、外套及各種背囊」ニ限リ陸軍大臣ニ於テ當分ノ

内其ノ保存期限ヲ第二十九表ノ如ク伸縮スルコトヲ得ヲ削ル

第十表中「附料」ヲ「糧食」ニ改メ「罐詰肉類」前ニ左ノ一欄ヲ加フ

糖
三
合

第十二表中轉科服裝手當ノ欄ヲ削ル

第十三表及第十四表ヲ別表ノ如ク改ム

第十五表乃至第二十表及第二十九表ヲ削ル

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕陸軍大學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年三月三十一日

陸軍大臣寺內正毅

勅令第七十一號 (官報 四月二日)

陸軍大學校條例

第一條 陸軍大學校ハ才幹アル少壯士官ヲ選拔シテ高等用兵ニ關スル學術ヲ修メシメ併テ軍事研究ニ須要ナル諸科ノ學識ヲ増進セシムル所トス

第二條 學生教育ノ實施ハ參謀總長ノ定ムル教育綱領ニ據ル

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長
- 幹事
- 副官
- 軍醫
- 獸醫
- 副監督
- 兵學教官
- 馬術教官

教官

下士別任教官

第四條 校長幹事及專任ノ兵學教官ハ參謀官トス

第五條 校長ハ參謀總長ニ隸シテ校務ヲ總理シ幹事及諸教官ヲ統督シテ學生教育ノ責ニ任ス

第六條 幹事ハ校長ヲ補佐シ教育ノ實施及其ノ齊一ヲ規畫シ副官軍醫獸醫副監督ヲ督シ校務ヲ整理シ且學生ヲ監督ス

第七條 副官軍醫獸醫副監督ハ校長ノ命ニ從ヒ各事務ヲ擔任ス

第八條 兵學教官馬術教官及教官ハ校長ノ命ニ從ヒ學術ノ教授ニ任ス
馬術教官ハ校庭一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第九條 陸軍大學校學生候補者ハ各兵科陸軍科 砲兵科 騎兵科 工兵科 衛生科 獸醫科 農學科 測量科 測量科 測量科ノ中少尉ニシテ二年以上入校當年七月一日開隊務ニ服シ且山事校務兵實地學校師範及要塞砲兵射擊學校身體強健勤務精勵學才ニ富ミ且操行高尚ニシテ將來大ニ發達ノ見込アルモノナルコトヲ要ス

第十條 聯隊長砲兵科 騎兵科 工兵科 衛生科 獸醫科 農學科 測量科 測量科 測量科ニ在リテハ其ノ所屬長以下同シ前條ノ資格アルモノヲ選抜シ學生候補名簿ヲ製シ順序ヲ經テ所管長官ニ進達シ所管長官ハ之ニ意見ヲ附シ毎年一月盡日迄ニ參謀總長ニ進達ス

聯隊長ハ學生候補者選抜ニ關シテハ特ニ擔保ノ責ニ任ス

第十一條 學生候補者試驗科目並試驗開始ノ時日ハ參謀總長ノ移牒ニ由リ毎年十二月陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 參謀總長ハ試驗委員ヲ設ケ校長ヲ委員長ト爲シ試驗ヲ行ハシム

試驗ハ筆記トシ分テ初審試驗及再審試驗トス

初審試驗ハ學生候補者ノ學力ヲ檢定スルモノニシテ再審試驗ハ初審試驗ニ合格シタル者ニ就キ學力ノ活用ヲ檢定スルモノトス

第十三條 學生候補者ニシテ初審試驗開始前大尉ニ進級シタル者ハ候補者タル資格ヲ失フモノトス

第十四條 試驗ハ師管内ニ在ル候補者ニ付テハ師團長混成旅團守備管區内ニ在ル候補者ニ付テハ混成旅團長在外守備隊ニ於ケル候補者ニ付テハ當該守備隊長ノ指定スル場所ニ於テ各地同時ニ之ヲ行フモノトス但シ教育總監所管ノ候補者ニ付テハ教育總監近衛師團ニ於ケル候補者ニ付テハ近衛師團長ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ行フモノトス

第十五條 參謀總長ハ試驗委員長ヲシテ初審試驗ニ係ル試驗問題及受験者名簿ヲ每年二月中ニ教育總監及關係團隊長ニ送付セシム

教育總監及團隊長ハ前條指定ノ場所ニ受験者ヲ集メ參謀長又ハ參謀參謀長又ハ參謀トハ隊員ノ監視下ニ於テ試驗ヲ行フ

教育總監及團隊長ハ前項試驗ノ解答書類ヲ總メ速ニ試驗委員長ニ送付スヘシ

試驗委員ハ前項ノ書類ニ由リ試驗ノ成績ヲ調査シ試驗委員長ハ順次名簿ヲ製シ之ヲ參謀總長ニ進達スヘシ

第十六條 參謀總長ハ前條ノ順次名簿ニ由リ合格者ヲ裁定シ前條ニ準シ再審試驗ヲ行ハシム但シ試驗問題及受験者名簿ハ毎年六月中ニ之ヲ送付スルモノトス

第十七條 參謀總長ハ試驗書類及學生候補名簿ヲ參照シ入學者ヲ裁定シ之ヲ陸軍大臣ニ移シ陸軍

大臣ハ之ニ入學ヲ命シ十一月盡日迄ニ陸軍大學校ニ居告セシム
第十八條 入學中學生ノ名籍ハ原所管ヲ離ルルコトナシト雖願居其ノ他業務上ニ關シテハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十九條 學生ノ修學期限ハ三箇年トシ其ノ各學年ノ學期ハ十二月ニ始マリ翌年十一月ニ終ル
第二十條 校長ハ學生入學ノ後ニ其ノ資格不適合ト認ムルコトアルトキハ參謀總長ニ具狀ス參謀總長ハ之ヲ查覈シ陸軍大臣ニ移シ退學ヲ命シ原所管ニ復歸セシム
疾病ノ爲ニ缺課多キモ尙成業ノ見込アルモノニ在リテハ校長ノ上申ニ由リ參謀總長ハ之ニ滯學ヲ命スルコトアルヘシ

第二十一條 毎年八月ヨリ十月ニ亙リ學生ヲ各兵種ノ部隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム隊附勤務ハ通常秋季演習ヲ以テ終リト爲ス但シ陸軍大學校ノ授業上必要ト認ムルトキハ校長ハ期ニ先チ學生ヲ召還スルコトヲ得
學生隊附勤務中ハ當該隊長ノ指揮命令ニ從フコト共ノ部下將校ニ異ルコトナシ又當該隊長ハ學生ニ對シ懲罰ヲ科スルノ權ヲ有ス

第二十二條 學生隊附勤務ヲ終レハ當該隊長ハ其ノ成績ヲ校長ニ申報ス
第二十三條 教育上適當ノ時機ニ於テ要塞砲兵射擊砲臺軍艦其ノ他製造所等ヲ實視セシム
第二十四條 校長ハ各學期ノ終リニ於テ幹事及兵學教官ヲ會シ學生ノ修學結果及伎倆ヲ審查シ第一第二學年學生ノ爲ニハ其ノ修學結果報告ヲ第三學年學生ノ爲ニハ伎倆證明書並成績順次名簿ヲ製シ參謀總長ニ呈ス

第二十五條 學生ノ卒業者ニハ卒業證書及之ヲ表彰スヘキ徽章ヲ附與シ原所管ニ復歸セシム但シ成績不良ノモノニハ單ニ修學證書ノミヲ附與ス
第二十六條 修學ニ所要ノ圖書器具及消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトヲ得
第二十七條 武官教官ハ校務ニ差支ナキ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシム若ハ機動演習ニ參與セシムルコトアルヘシ
第二十八條 校長ハ毎年學生ニ三週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

股明治三十六年度歲出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年四月二日

大藏大臣 野村 浩将

勅令第七十二號(官報 四月四日)

明治三十六年度歲出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途左ノ通之ヲ定ム

退官	賜金	常設仲裁裁判所費分擔金
死	亡賜金	在外地所家屋公課
死	傷手醫費	在外國難民貸與金
賠償	債及訴訟費	阿片
官吏	療治料	衛生試驗所依頼試驗用諸費
外務本省	及在外公館電信料	血清痘苗調製及配送費

巡查看守守衛及警查給助
 巡查及看守守衛滿年賜金
 遺失物取報及收得費
 褒賞恩賜及救助費
 徵兵參事員手當
 徵兵參事員入營附添入檢丁及新兵旅費
 傳染病豫防費補助
 警察費運帶支辨金
 度量衡檢定出張旅費
 刑事被告人犯罪人應送押送留置及隨車捕刑罰監獄
 難破物除却費
 海港檢疫費
 行政處分強制制費
 小笠原島及沖繩縣傳染病豫防費
 小學校教員恩給補充費
 精神病者監護費
 文官軍人及學校職員恩給
 沖繩縣會侶飯米代
 帝國議會職員副議長議員歲費及旅費

貴族院及衆議院議案類印刷費
 稅關官吏及傭人臨時助勞手當
 從價稅品買上代
 收容貨物及無請求品費
 所得稅關查費
 國稅事務取扱市町村交付金
 稅法乘運車庫賣法逃犯者及租稅附納處分費
 印紙鑑札類諸費
 災害地瓦租處分費
 臺灣國庫金遞送費
 貨幣交換差金
 仕排命令及保管金引出切符用紙製造費
 公債證書製造及在外公債取扱費
 諸拂戻及缺損補填金
 製造煙草輸出交付金
 日本興業銀行補助
 罹災救助基金補助
 埋米扶助米代及鹽茶料

糧食品購買費
 軍馬飼養品費
 供灣匪徒鎮定費
 海軍定期職工滿期賜金
 海軍遭難服裝手當
 海軍傳染病消毒諸費
 海軍依託患者費
 海軍志願兵家族扶助金
 司法及行政裁判臨檢旅費
 執達吏補助費
 違犯密告者給與費
 裁判
 登記用紙及公告費
 囚徒及在監人諸費
 萬國編纂目錄出版費
 萬國測地學協會費
 中央氣象臺委託電報料
 萬國度量衡會費

萬國工業所有權保護同盟費分擔金
 官林檢査香諾費
 露種檢査費補助
 萬國郵便電信聯約費
 遞信事業用證票類製造費
 爲替貯金受拂費
 船舶檢査審判臨檢旅費
 海關審判費
 難破船費
 航海及造船獎勵費
 日本鐵道株式會社利益補助
 京釜鐵道株式會社補助
 北海道鐵道株式會社補助
 臺灣看守俸給及月手當
 臺灣看守被服及帶具費
 臺灣醫院及海港檢疫所患者費
 臺灣通信切手類製造及買戻費
 臺灣通信事務助力者報酬金
 臺灣通信料金不納徵收費

臺灣專賣局材料藥品購買費
臺灣 獸疫 豫防 費
官報 遞送 費

葉煙草運搬及保管費
葉煙草査定數量鑑定諸費
葉煙草賠償及購買費

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ外國通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造變造取締ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年四月十一日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
内務大臣男爵内海忠勝
大藏大臣男爵曾根荒助
外務大臣男爵小村喬太郎

勅令第七十三號 (官報 四月十三日)

第一條 外國ニ於テ流通スル貨幣、紙幣又ハ銀行券ハ之ヲ偽造又ハ變造スルコトヲ得ス
第二條 偽造又ハ變造シタル外國流通ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ハ之ヲ帝國ヨリ輸出シ若ハ外國ニ輸入シ又ハ之ヲ行使シ若ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ收得スルコトヲ得ス
第三條 第一條及第二條ニ違反シタル者及第一條ノ偽造又ハ變造ノ目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ製造シ又ハ之ヲ帝國ヨリ輸出シ若ハ外國ニ輸入シタル者ハ一年以下ノ重禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ明治三十六年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十五年勅令第二百五十六號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十五年四月十一日勅令第二百五十六號ハ外國通用白銅貨ノ偽造變造取締ニ關スル件ナリ

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ小學校令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年四月十一日

文部大臣理學博士男爵菊池大麓

勅令第七十四號 (官報 四月十三日)

小學校令中左ノ通改正ス
第二十四條第一項中「編纂シタルモノ」及文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ小學校圖書審査委員會ノ審査ヲ經テ府縣知事之ヲ採定ス「著作權ヲ有スルモノ」ニ改メ其ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ
前項ノ圖書同一ノ教科目ニ關シ數種アルトキハ其ノ中ニ就キ府縣知事之ヲ採定ス
文部大臣ハ第一項ノ規定ニ拘ラス修身、日本歴史、地理ノ教科用圖書及國語讀本ヲ除キ其ノ他ノ教科用圖書ニ限リ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノ及文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ府縣知事之ヲ採定セシムルコトヲ得

第二十五條 削除

第二十六條 削除

第五十六條中「並小學校教科用圖書審査ヲ削ル

附則

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十四條第二項及第三項ハ此ノ限ニ在ラス
明治三十七年四月一日前第二十四條第二項又ハ同條第三項ニ依リ採定ヲ爲ス場合ニ於テハ審査委
員會ノ審査ヲ經ルヲ要セス

本令施行前ニ於ケル審査採定及本令施行前ニ採定シタル教科用圖書ニ關シテハ從前ノ罰則其ノ他
ノ規程ヲ適用ス但シ使用ヲ始メタル後四箇年ヲ經タル圖書ハ採定ノ效力ヲ失フ

〔參照〕

勅令第三百四十四號小學校令(明治三十三年八月二十日官報)抄録

第二十四條 小學校ノ教科用圖書ハ文部省ニ於テ採定シタルモノ及文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ小學校圖書審査委員
會ノ審査ヲ經テ府縣知事ニ採定ス

附則科ノ教科用圖書ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 府縣知事ノ採定シタル教科用圖書ニシテ其ノ一部ヲ修正シ文部大臣ノ檢定ヲ受ケタルモノハ更ニ審査委員
會ノ審査ヲ經テ府縣知事ニ於テ採定ノ效力ヲ繼續スルコトヲ得

第二十六條 小學校圖書審査委員會ハ府縣ニ置キ之ニ提シタル者ヲ以テ之ヲ組織ス

- 一 府縣書記官
- 二 府縣視學官
- 三 主任府縣視學
- 四 副視學校長
- 五 副視學校長
- 六 府縣立中學校校長一名

七 府縣立高等女學校長一名

八 郡視學二名

小學校圖書審査委員會及府縣ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第五十六條 小學校校長檢定並小學校教科用圖書審査及府縣視學狀ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

御 名 御 璽

明治三十六年四月十四日

勅令第七十五號(官報 四月十五日)

陸軍省官制

第一條 陸軍大臣ハ陸軍軍政ヲ管理シ陸軍軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス

第二條 陸軍省ニ副官ヲ置ク

副官ハ陸軍大臣ノ命ヲ承ケ總務局ノ事務ヲ掌ル

第三條 陸軍省ニ左ノ六局ヲ置ク

- 總務局
- 人事局
- 軍務局
- 經理局
- 醫務局

内閣總理大臣 伯爵 桂 太郎
陸軍大臣 寺內正毅

法務局

- 第四條 總務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 機密ニ關スル事項
 - 二 大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項
 - 三 公文書類ノ接受、發送及編纂、保存ニ關スル事項
 - 四 印刷及翻譯ニ關スル事項
 - 五 徵發物件表、報告及統計ニ關スル事項
 - 六 軍旗及靖國神社ニ關スル事項
 - 七 圖書保管ニ關スル事項
 - 八 省内ノ風紀ニ關スル事項
 - 九 省屬判任文官ノ人事ニ關スル事項
 - 十 本省ノ諸給與及用度ニ關スル事項
 - 十一 例規ニ依リ取扱フヘキ庶務及各局課ニ屬セサル事項
- 第五條 人事局ニ補任課及恩賞課ヲ置ク
- 第六條 補任課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 將校、同相當官、准士官及文官ノ進退、任免、補職、命課、增俸及增給ニ關スル事項
 - 二 將校、同相當官及准士官ノ兵籍、陸軍文官名簿及停年名簿ニ關スル事項
 - 三 將校、同相當官及高等文官ノ戰時職員表ニ關スル事項
 - 四 退職將校、同相當官及准士官ノ人事及名簿ニ關スル事項

第七條 恩賞課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 恩給ニ關スル事項
 - 二 敘位、敘勳、記章、褒章及賞與ニ關スル事項
 - 三 准士官下士ノ文官採用ニ關スル事項
 - 四 賜暇ニ關スル事項
 - 五 結婚ニ關スル事項
- 第八條 軍務局ニ軍事課、步兵課、騎兵課、砲兵課及工兵課ヲ置ク
- 第九條 軍事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 建制及編制ニ關スル事項
 - 二 勳賞計畫、戒嚴及徵發ニ關スル事項
 - 三 演習及檢閱ニ關スル事項
 - 四 團隊配置ニ關スル事項
 - 五 戰時ノ諸規則ニ關スル事項
 - 六 外國駐在員及留學將校、同相當官ニ關スル事項
 - 七 儀式、禮式、服制及徽章ニ關スル事項
 - 八 軍紀、風紀ニ關スル事項
 - 九 參謀本部、教育總監部、陸軍大學校、士官學校、中央幼年學校及地方幼年學校ニ關スル事項
 - 第十條 步兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 憲兵、歩兵、屯田兵及軍樂隊ノ本務ニ關スル事項

- 二 各兵科將校及憲兵科步兵科屯田兵軍樂部下士以下ノ補充ニ關スル事項
- 三 將校同相當官以下補充ノ規定ニ關スル事項
- 四 兵役召集及解兵ニ關スル事項
- 五 現役豫備役後備役軍人及國民兵役者ニ關スル事項
- 六 軍隊ノ内務衛戍勤務及軍事警察ニ關スル事項
- 七 練兵場及小銃射擊場ニ關スル事項(築設維持及管理ヲ除ク)
- 八 懲治隊聯隊區司令部及戸山學校ニ關スル事項

第十一條 騎兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 騎兵ノ本務ニ關スル事項
- 二 獸醫部ノ勤務及教育ニ關スル事項
- 三 獸醫部ノ人事及其ノ人員補充ニ關スル事項
- 四 騎兵科下士以下及各兵科蹄鐵工長ノ補充ニ關スル事項
- 五 軍馬ノ供給飼養保續及徵發ニ關スル事項
- 六 蹄鐵術ノ教育及蹄鐵ニ關スル事項
- 七 獸醫材料ニ關スル事項
- 八 軍馬補充部騎兵實施學校及獸醫學校ニ關スル事項

第十二條 砲兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 砲兵及輜重兵ノ本務ニ關スル事項
- 二 砲兵科及輜重兵科下士以下ノ補充ニ關スル事項
- 三 砲兵射擊場ニ關スル事項(築設維持及管理ヲ除ク)
- 四 兵器一切ノ經理及其ノ検査ニ關スル事項
- 五 要塞兵備ニ關スル事項
- 六 技術審査部兵器廠砲兵工廠火藥研究所野戰及要塞砲兵射擊學校砲兵工科學校ニ關スル事項

第十三條 工兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 工兵ノ本務ニ關スル事項
- 二 工兵科下士以下ノ補充ニ關スル事項
- 三 運輸通信電氣術電信術電燈煙氣球及使鶴ニ關スル事項
- 四 水陸交通路ニ關スル事項
- 五 要塞ノ築造及其ノ用地並要塞地帯ニ關スル事項
- 六 鐵道大隊要塞司令部對馬警備隊司令部陸地測量部築城部臺灣補給廠砲工學校及電信教

第十四條 經理局ニ主計課衣糧課及建築課ヲ置ク

第十五條 主計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 陸軍總豫算決算報告及動員計畫ニ係ル豫算算帳ニ關スル事項
- 二 俸給諸手当及旅費ノ規定ニ關スル事項
- 三 諸給與及經理規定ノ審査ニ關スル事項
- 四 經理部ノ勤務及教育ニ關スル事項

- 五 經理部ノ人事及其ノ人員補充ニ關スル事項
- 六 金錢ニ係ル出納官吏ニ關スル事項
- 七 經理學校ニ關スル事項
- 第十六條 衣糧課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 被服一切ノ經理及其ノ検査ニ關スル事項
 - 二 被服、糧秣及馬匹ニ係ル給與ノ規定ニ關スル事項
 - 三 平時及戰時ノ糧秣諸給與、野戰軍及要塞ノ給養準備ニ關スル事項
 - 四 經理部ノ野戰給養勤務ノ規定ニ關スル事項
 - 五 戰用炊具及馬匹手入具ニ關スル事項
 - 六 被服廠、糧秣廠及千住製絨所ニ關スル事項
- 第十七條 建築課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 陸軍用地及諸建築ニ關スル兵隊及工兵隊ノ事務ニ關スル事項
 - 二 宅料、陣營具及其ノ永續料、消耗品料、埋葬料並諸調度ノ規定ニ關スル事項
 - 三 物品會計及出納官吏ニ關スル事項
 - 四 官有財產ニ關スル事項
 - 五 金櫃及公用行李ニ關スル事項
- 第十八條 醫務局ニ衛生課及醫事課ヲ置ク
- 第十九條 衛生課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 衛生部ノ勤務及教育ニ關スル事項

- 二 衛生部ノ人事及其ノ人員補充ニ關スル事項
- 三 衣食住、給水、排水等ノ衛生ニ關スル事項
- 四 防疫及治病上ノ審案ニ關スル事項
- 五 衛生報告、統計及衛生部員學術上ノ業績ニ關スル事項
- 六 軍醫學校ニ關スル事項
- 第二十條 醫事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 病院、休養室及轉地療養所ニ關スル事項
 - 二 衛生材料ニ關スル事項
 - 三 身體検査ニ關スル事項
 - 四 恩給診斷及傷病ニ因ル除役ニ關スル事項
 - 五 衛生材料廠及恤兵團體ニ關スル事項
- 第二十一條 法務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 軍事司法ニ關スル事項
 - 二 監獄ニ關スル事項
 - 三 特赦及罪人引渡ニ關スル事項
 - 四 理事、錄事及監獄職員ノ人事及其ノ補充ニ關スル事項
 - 第二十二條 法務局ノ職員ハ高等軍法會議ノ事務ニ服ス
 - 第二十三條 陸軍省職員ハ附表ノ如シ

附則

